

大会会報

平成28年 8月25日(木)・26日(金)

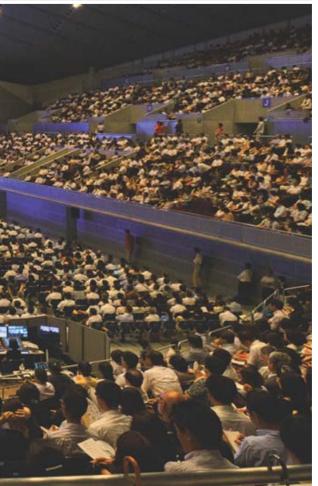
主催/一般社団法人全国高等学校PTA連合会 主管/千葉県高等学校PTA連合会



~今こそ信じよう愛の絆~







目次

大会フォトギャラリー

入 时 · 	
会長式辞 ————————————————————————————————————	
来賓祝辞 ————————————————————————————————————	
大会概要	
大会要項 ————————————————————————————————————	
大会内容・会場等	
大会日程表 ————————————————————————————————————	
会場へのアクセス	
大会役員名簿 ————————————————————————————————————	
大会実行委員会名簿 ————————————————————————————————————	
開会式・表彰式	
開会式・表彰式 ――――――――――――――――――――――――――――――――――――	
基調講演・記念公演	
基調講演 ————————————————————————————————————	
記念公演 ————————————————————————————————————	
分科会・特別分科会	
分科会一覧 —————	
分科会報告 ————————————————————————————————————	
閉会式	
閉会式 ————————————————————————————————————	
大会宣言 ————————————————————————————————————	
自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動	
編集後記	
分科会収録 DVD ————	
Disc 1:全国高P連研究発表/千葉大会紹介ビデオ	
Dico 2:第1公科会/第9公科会/第9公科会/第	15

「再発見!愛」

特別第1分科会/特別第2分科会



~今こそ信じよう愛の絆~

開会式

●大会会長式辞



一般社団法人 全国高等学校PTA連合会 長

佐野 元彦

●開会挨拶



第66回全国高等学校PTA連合会大会 千葉大会実行委員会委員長

大木 幸夫



●来賓祝辞



文部科学大臣

松野 博一様





▶来賓祝辞



千葉県知事

森田 健作様

●来賓祝辞



千葉市長

熊谷 俊人様

表彰式

文部科学大臣表彰・全国高等学校PTA連合会会長表彰



表彰状贈呈者 (左から)

平成28年度優良РТА文部科学大臣表彰

東京都立富士高等学校・東京都立富士高等学校附属中学校父母と先生の会 代表: 砂金 達

平成28年度全国高等学校 P T A 連合会会長表彰 個人の部 千葉県立千葉中学校・千葉高等学校 P T A 小高 正之

平成28年度全国高等学校 P T A連合会会長表彰 団体の部 **千葉県立成東高等学校 P T A**

代表:川島 正博

平成28年度全国高等学校 P T A 連合会会長表彰 役員等の部 一般社団法人全国高等学校 P T A 連合会 前副会長 椎野 正敬









受賞者代表謝辞

一般社団法人全国高等学校 PTA連合会 前副会長 椎野 正敬





特別感謝状



第65回全国大会岩手大会主管团体 岩手県高等学校PTA連合会 代表: 朽木 聖好



第65回全国大会岩手大会実行委員長 **渡辺 正和**

基調講演・記念公演

●基調講演

高校生の自立を支援するPTA活動の在り方 ~今こそ信じよう高校生を~

千葉敬愛短期大学 学長 明石 要一氏







●記念公演 「私が選んだ女優の道」 ☆優 市原 悦子 氏







全国高P連研究発表

進路選択と親子のコミュニケーション

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研 所長

小林 浩氏















第1分科会

学校教育とPTA

~再発見!愛 グローバル化に対応した資質・能力を育む~



















第2分科会

進路指導とPTA

~再発見!愛 希望進路を実現する進路指導~



















第3分科会

生徒指導とPTA

~再発見!愛 思いやりのある「豊かな心」を育む生徒指導~



















第4分科会

家庭教育とPTA

~再発見!愛 多様化する情報社会における青少年の健全育成~



















特別第1分科会

学校の危機管理とPTA

~生徒指導上の諸課題解決のために~

















特別第2分科会

情報機器と学校教育

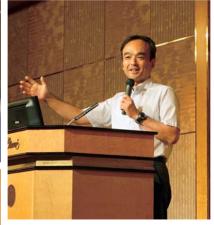
~高校生のスマートフォン利用の状況と必要な対応について~













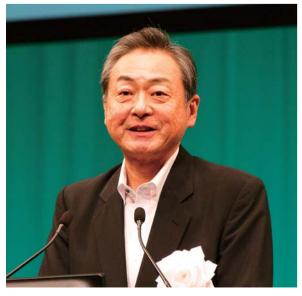






閉会式

●大会会長閉会の挨拶



一般社団法人 全国高等学校PTA連合会 長

佐野 元彦

●全国高P連旗返還



千葉大会実行委員会委員長から 全国高P連会長へ

●大会宣言提案



第66回全国高等学校PTA連合会大会 千葉大会実行委員会副委員長

金子 浩章

●全国高P連旗授与



全国高P連会長から静岡大会実行委員長へ

●次期開催地挨拶



第67回全国高等学校PTA連合会大会 静岡大会実行委員長

杉浦 政紀

●実行委員長閉会の挨拶



第66回全国高等学校PTA連合会大会 千葉大会実行委員会委員長

大木 幸夫

●次期開催地パフォーマンス



アトラクション

●大会テーマソング 千葉県立八千代高等学校 岡谷 柚奈







●柏市立柏高等学校 吹奏楽部









●千葉県立東金高等学校 箏曲部









●習志野市立習志野高等学校 吹奏楽部









●千葉県立富里高等学校 ジャズ・オーケストラ部「The Mad Hatters」









●千葉県立八千代高等学校 鼓組









●千葉県立松戸国際高等学校 バトン部





●千葉県立松戸国際高等学校 ダンス同好会









大会スナップ











第 66 回 全国高等学校PTA連合会大会 千葉大会

式辞·祝辞



「再発見!愛」

~今こそ信じよう愛の絆~



佐野 元彦

皆さん、おはようございます。国際展示場会場で、映像配信でご覧をいただいている皆さま方、おはようございます。一万人を超える参加者のため、一つの会場で開催することができなかったことを、大変心苦しく思っております。お許しください。

第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会がいよいよ始まります。全国から、このように大勢のPTA会員の皆さま方にご参集いただいたことに対し、まずもって心より感謝を申し上げます。また、公務ご多忙の中、文部科学大臣松野博一様、千葉県知事森田健作様、千葉市長熊谷俊人様をはじめ、日ごろ、私たちPTA活動を、ご支援ご指導いただいている皆さま、そして、本大会の開催にご尽力ご協力をいただいた皆さま、多数のご来賓の皆さま方に、心から厚く御礼を申し上げる次第であります。

さて、本大会のテーマは、「再発見!愛 ~今 こそ信じよう愛の絆~」です。今ほど、大木実 行委員長から、愛の持つ意味についてお話があ りましたが、大会の趣旨を拝見しますと、その テーマの意味するところは、子どもを家庭や地 域の宝と捉え、深い愛情を注いできたわが国。 しかしながら、社会の在り方や価値観の大きな 変化に伴い、子どもをみんなで育てようとする 気持ちが薄らいできた状況を憂い、家庭と地域の教育力を再考し、学校の教育力と手を携えて、社会総がかりで子どもを育てようという呼び掛けであります。

折しも、本年4月には、高大接続システム改革に関する提言のまとめ案が発表され、初等・中等教育の最終段階である高校教育、社会の要請に応えて、それをさらに伸ばす、高等教育としての大学教育、この二つを大きく変える方向に動きだしました。少子高齢化・高度情報化・グローバル化の進展という現状に加えて、第4次産業革命とも言われる人工知能AIやロボット技術、さらには、物と物をインターネットで結ぶ IoT、それらの発達に伴って、社会の大きな変容が予想されます。

皆さま方もよくお聞きになったかと思いますが、人工知能、IoT、そして、ロボット技術の進展によって、今、人間が行っている仕事の50%は、それらに取って代わられるだろうと予測されております。果たしてそのようなとき、人は、私たち人間は、何をすべきなのでしょうか。

今回の提言は、このような過去の延長線上に はない新たな状況や課題に挑戦し、社会を適応 させ、発展させていく人とは、どのような力を 備えた人なのかという問いに対する答えと言っ てもいいでしょう。

その力とは、知識・技能の習得はもちろんのこと、目の前に次々と現れる新たな課題に対して、身に付けた知識・技能を駆使して、思考し判断する力、主体的に挑戦しようとする態度、多様な人たちと協働して取り組もうとする姿勢と、それを可能にする表現力、すなわち、社会がどのように変化しても、柔軟に対応し、創造性を持ってよき方向に変えていく真の生きる力を身に付けた自立した人を育てていこうということだろうと考えます。

また、評価についても、これまで重視されてきた知識技能の習得のみならず、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性、さまざまな多様な力を多面的に評価する方向に変えようとしています。日本の将来を左右するようなこの壮大な取り組みを成功させるためには、学校のみならず、家庭・地域の協働が必要であり、まさに社会総がかりで取り組むことが重要です。

私たちPTAは、学校・家庭・地域を結ぶ存在だと標榜(ひょうぼう)してまいりました。今こそ言葉だけで終わらせることなく、全国津々浦々で展開されている各学校のPTA活動が、社会総がかりの基点となるよう、行動で示していくときがまいりました。

私たちは、「P」親や家庭と、「T」教職員・学校が、協働する団体です。両者の願いは、子どもたち一人ひとりが自立した人間となって自己実現を果たし、幸せな人生を送ってくれることであり、子どもたちの自立を支援しようという思いを同じくする同士であります。「P」と「T」がしっかりとベクトルを合わせ、手を携え

て、子どもたちの自立を支援する人、「自立支援 者」として活動してまいりましょう。

選挙権年齢の18歳への引き下げに伴う政治的 教養教育、経済的困窮家庭の子どもたちの就 学・進学問題などの新たな課題に対しても、こ の自立を支援するという視点を取り入れること で、きっとよき解が見つかるものと信じており ます。

本大会に参加された皆さま方が、2日間にわたる研究協議を通じて、多くの学びと気付きを得て、今後の各学校PTAの活動のさらなる充実・発展に生かしていただくことを心から念願し、式辞といたします。2日間、どうぞよろしくお願いいたします。

祝辞



文部科学大臣

松野博一様

本日、第66回全国高等学校PTA連合会大会 千葉大会が、このように盛大に開催されますこ とを心からお喜び申し上げます。

本大会の開催に当たり御尽力されました、一般社団法人全国高等学校PTA連合会および千葉大会実行委員会の皆様方に深く敬意を表します。私も千葉県選出議員でありまして、全国から御来場いただきました皆様方に、心から歓迎の意を表します。

先日、リオデジャネイロオリンピック大会が 閉幕しましたが、子供たちには、選手の活躍を 通して、スポーツの素晴らしさ、努力すること の大切さなどを感じてもらえたものと思いま す。

教育は、未来への先行投資であり、教育再生なくして我が国の成長はありません。一億総活躍社会の実現と地方創生の推進に向けて、学校と地域が一体となって連携・協働し、子供の成長を支え、学校を核として地域社会が活性化するよう、「次世代の学校・地域」の創生を進めてまいります。

さらに、情報化やグローバル化が急激に進展 する時代を、たくましく、しなやかに生きてい く人材を育てていくことが急務です。このた め、今後の学校教育の充実に不可欠な「学習指 導要領改訂」に取り組んでまいります。その際、 学習内容は削減せず、質の高い理解を実現する ための改善を行ってまいります。

誰もが家庭の経済事情に左右されることなく、希望する質の高い教育を受けられるよう、幼児期から高等教育段階まで切れ目のない形で教育費負担軽減を図ります。特に給付型奨学金につきましては、文部科学省として、引き続き、具体的な制度設計に向けた検討を進め、速やかに制度が導入されるよう努めてまいります。

皆様方におかれましては、日頃から高等学校におけるPTA活動を通じ、学校、家庭、地域の架け橋として、子供たちの健全育成に御尽力いただいておりますことに、深く感謝を申し上げます。

結びに、今回の大会が実り多いものとなり、 全国高等学校PTA連合会の益々の御発展と、 御参集の皆様方の一層の御活躍を祈念申し上 げ、お祝いの言葉といたします。おめでとうご ざいます。



千葉県知事

森田健作様

お招きを賜りまして、誠にありがとうございます。皆さまにおかれましては、常日ごろから青少年育成にご尽力を賜りまして、心から敬意を表するところでございます。

皆さん、おはようございます。ようこそわが 千葉県においでくださいました。お待ちしてい ました。

皆さんね、教育というのは大事ですね。でも、 今は、若者、言うならば、そういう子どもの問 りの環境は、非常に厳しいところがあります。 いじめ、不登校、引きこもり。

私も、これを何とかしなきゃいかんでしょう、皆さん。それで、いい特効薬はないか、ヒントはないかと、私もずっと考えました。あったんですよ。皆さん、私たちだって、小学校、中学校、高校時代があったじゃないですか。黙ってこんな大きくなったわけじゃないですよね。じゃあ、そのときに自分を戻して、私たちがどんな言葉に落ち込んで、どんな言葉で励まされ、どんな言葉にやる気が出たか。

私は、中学校3年、これは初めのころかな。 団塊の世代でございます、私。一クラス58名、 10クラスありましたよ。みんな勉強しました。 それで、私も親しい友人が3人いました。2年 生のときと打って変わって勉強して、本当にい い成績になった。私だって勉強したんですよ。

ところが、残念なことに、私は、どうもうまくいかなかった。学校の先生からは、私は、本名を鈴木栄治というのですが、「鈴木、おまえ、駄目だよ、おまえ。剣道ばかりやってたって。なあ、もっと勉強やれ。落ちるぞ」とかね。家に帰ったら、両親に怒られ、そして、もう最後のほうになって、父親に1時間、懇々と私は説教されました。

それで、私は、もういいやと。おれはどうせ 勉強できないんだよと。おれなんか、この家に いたって邪魔じゃねえかと。ああ、いいや、も ういいや、もう、おれは、家を出ていってやる。 おれみたいなのは死んだほうがいいんだと、私 は自暴自棄になりました。そして、あるとき、 私が勉強もせずに、縁側にたたずんでおりまし た。母親が来たんですよ。「栄治な、いいか、人 は皆、必要があって生まれてきたんだ。おまえ にだって、あのお友達が持っていない、おまえ しか持っていないいいところが必ずある。それ を見つけて頑張れ。通信簿に書いてあったじゃ ないか。鈴木くんは、明るく元気で、そして、 スポーツやって、クラスのリーダーになって頑 張っている。今のおまえは何なんだ。いいか、 成績は、真ん中からちょっと上ぐらいでいいか ら、な。前のように頑張れよ」と。

私は、はっきり言って、ほっとしました。そうだよなと、よーしと。あれだけ落ち込んでいた私が、あっという間に、また元の鈴木栄治に戻って、元気になりまして、剣道も始めました。 実は、それが、私の将来の大きな扉を開いたんでございます。

私が俳優になる。当時、歌手の黛ジュンさんの夕月という歌が大ヒットして、それで相手役募集、私が合格したんです。なぜ合格したか。審査委員長は言いました。「鈴木くん、君の元気な声がいいじゃないか。明るくていいじゃないか。スポーツマンじゃないか。松竹が目指しているスターだ」。そして、またその後、テレビで、青春ドラマ「おれは男だ!」というので、

主役に選ばれたのも、同じことでございました。ですから、私は思うんです。私は、あのとき、母親のあの言葉がなかったら、もっともっと、みんなに勉強しろ、勉強しろ、おまえは駄目だ、駄目だと言われていたら、今の私はありません。人は、それぞれ、顔が違うように、人は、それぞれ持っているものが違うんです。その持っているものを、しっかり私たちが見つけてあげて、それを私たちが育ててあげる。

わが千葉県、個性を伸ばす教育に今一生懸命 取り組んでいるところでございます。子どもた ちは、私たちの宝でございます。私たちの英知 を集めて、わが千葉県、日本国のために頑張ろ うではありませんか。ありがとうございまし た。





千葉市長 **能谷 俊人** 様

皆さま、おはようございます。千葉市長の熊谷です。森田知事の熱弁の後にあいさつ、少しやりづらい感じもいたしますけれども、まずは、全国より、ようこそ千葉県千葉市にお越しをいただきました。97万人の市民を代表して、心から歓迎を申し上げます。そして、何より、今日、この後、表彰をお受けになられます皆さま方をはじめ、それぞれの皆さま方が、地域において青少年の健全育成、そして、また、学校と地域をつなぐ貴重な役割を果たしていただいていることに、心から敬意を表します。

先ほど来、子どもをめぐる環境の変化というような話もありますが、そうした中で、PTA活動を続けていくこと、もともとPTA活動、大変活動量が多い団体でもございますので、大変なこともあろうかと思いますが、今、チーム学校と言われたり、そして、また、地域と学校と家庭をつなぐ役割の重要性があらためて指摘をされてきている中で、原点であるPTAの役割の重要性というのは、今まで以上に増してきているものというふうに思います。

よく子どもたちに、主体的に行動してほしいと、そういうようなことを言います。特に今年の夏は、参議院選挙があって、そして、18歳選挙権が生まれて、そして、主権者教育というのがありました。私たち千葉市においても、この学校の中で、どのように主権者教育を行うのか、

さまざま議論がありましたが、一番重要なことは、何といっても、政策を見比べるよりも、その前に、自分たちの地域、自分たちのことについて、主体的に考えて行動するという、この原点の気持ちを大事にしなければいけないということを、強く教育委員会と一緒に確認をしてまいりました。

そういう意味では、ただ学校に子どもを通わせる、教えるだけではなくて、主体的にそこに関わっていく。そして、学校がある地域とも関わっていく、そうした主体的に行動する皆さま方の背中こそが、恐らく最も重要な、私は主権者教育にほかならないと、そういうふうに思っております。どうぞ、これからも、子どもたちに素晴らしい背中を見せていっていただきたいなというふうに思います。

そして、せっかく千葉にお越しをいただきましたので、千葉の紹介を、森田知事に代わって行いたいというふうに思いますが、私からは、ひとつ、「千葉」という、この2文字についてお話をしたいと思います。この「千葉」という地名の持つ意味合いですけれども、これは、まずわれわれ千葉市のことについてご紹介をするところから始めたいと思います。

千葉市は、今年で、千葉開府890年を迎えました。890年前の1126年に、亥鼻という県庁のある地に、千葉常重という武将が居を構えてから

千葉の都市としての歴史がスタートいたしました。

そして、この千葉常重の息子が、千葉常胤であります。この千葉常胤という人物は、源平時代が大好きな方はご存じの方がいらっしゃると思いますが、一般的にはそれほど知られていないかと思います。

皆さま方が一番よくご存じなのは、何といっても源頼朝だと思いますが、源頼朝は、伊豆で挙兵をした後、一度、大きく敗れています。そして、この千葉県、南房総に船で逃げてまいりました。そのとき、供は10名ほどだったというふうに言われております。そこから、再起を期して、千葉の武士に助けてくれという、そうした助けを求めて、そして、いち早く味方をしたのが、この町を治めていた千葉常胤であります。

そして、千葉常胤が、源頼朝を迎え入れて、源氏ゆかりの地である鎌倉に行くべきだと進言をして、わが国最初の本格的な武家政権である鎌倉幕府が誕生いたしました。源頼朝からは、千葉常胤は父とも思うという、こういうようなかたちで、大変大事にされて、東北から九州まで広大な所領を治めました。

実は、東北で千葉さんという名前が大変多いのは、奥州藤原氏を征討する際に、東海道軍総大将で千葉常胤が行き、そして、子どもたちがたくさん東北の町を開いたからに起因をしております。例えば、東北出身で有名なのは、五千円札の新渡戸稲造でありますが、新渡戸稲造も千葉氏であります。武士道を書いて、世界中に武士の存在を知らしめたのが新渡戸稲造であります。また、剣道を確立した千葉周作、これも、千葉の末裔(まつえい)であります。

このように、日本で最初の武家政権を起こし、 そして、また、近代剣術を確立し、そして、世 界に「武」の存在を知らしめたのが、われわれ 千葉の千葉一族でございます。

実は、この皆さま方がいらっしゃる幕張、この幕張という地名というのは、源頼朝を千葉常胤が迎え入れるときに幕を張ったという、こういうようないわれと言われております。もう一つのいわれは、「馬加(まくわり)」、馬を加えると書いて、馬加が幕張になったという説もございますが、この馬加というのは、これは、千葉の一族の名前、この地を治めていた一族の名前であります。

こうしたかたちで、千葉というのは、「武」というものに大変関わりのある、そして、また、 源頼朝を助けたように、誰かが困ったときに助 けてきたそういう町、地でございます。

どうぞ、私たちは、あらためてそうした日本の誇るべき「武」であり、そして、また、弱きを助けるという、そうした気持ちを大事にする都市として、これからも歩み続けたいというふうに考えておりますので、ぜひ、それぞれの地域にお戻りになった際、「千葉」というこの2文字というのは、そういう歴史的な名前らしいよというふうに言っていただければ大変ありがたいと思います。

いろいろ申し上げてしまいましたけれども、 結びになりますが、どうぞ、この今日、明日、 分科会も含めた議論が大いに活発に盛り上が り、そして、それぞれの地域・学校・家庭にお いて、貴重な考えが持ち帰られて、それぞれの 地域で発展されることを心から祈念をし、そし て、皆さま方それぞれのPTA活動が大いに盛 んになることを心よりご祈念を申し上げまし て、開催都市を代表しての歓迎のあいさつに代 えさせていただきます。ようこそお越しをいた だきました、ありがとうございます。 第 66 回 全国高等学校PTA連合会大会 千葉大会

大会概要



大会要項

第66回全国高等学校PTA連合会大会『千葉大会』概要

メインテーマ 「再発見! 愛」

サブテーマ ~今こそ信じよう愛の絆~

戦後70年を経て、わが国では、少子高齢化が他国に例を見ないスピードで進み、若者の都市部への流出が続き、地方では人口の減少が深刻な問題となっています。

社会や家族のあり様が変化する中で、地域における子どもと大人の交流の場も少なくなり、子どもや家庭の孤立化が進んでいるとも言われています。

さらに、スマートフォンなどの情報端末が急速に普及し、コミュニケーションの多くがSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を介して行われるようになり、社会的な問題も生まれています。

一方学校は、生徒が集団で学び合う場です。表情を見て相手の心情をくみ取る力が育ち、心の通うコミュニケーションが生まれてきます。

今こそ原点に立ち戻り、人と人との「ふれあい」「かかわりあい」そして「つながり」の大切さを、再発見しようではありませんか。

千葉大会のテーマは「再発見! 愛」~今こそ信じよう愛の絆~ です。

大きく変化する社会の中で不安を抱えて生きていく子どもたちへの教育に、今何が求められているので しょうか。

子どもたちを支えていく、「学校」「家庭」「地域社会」とのつながり、「愛の絆」を確かなものとするために私たち大人ができることは何かを真剣に議論し、この房総の地から全国に発信します。

大会期日 平成28年8月25日(木)·26日(金)

開催場所 幕張メッセ (〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1 TEL 043-296-0001)

幕張イベントホール/国際展示場 9 ホール/国際展示場 2 ホール/国際展示場 3 ホール/国際会議場コンベンションホール

アパホテル&リゾート 東京ベイ幕張 ホール

(〒261-0021 千葉県千葉市美浜区ひび野2-3 TEL 043-296-1111)

ホテルニューオータニ幕張 鶴の間

(〒261-0021 千葉県千葉市美浜区ひび野2-120-3 TEL 043-297-7777)

- 主 催 一般社団法人 全国高等学校 P T A 連合会
- 主 管 千葉県高等学校 P T A 連合会
- 後 援 文部科学省 全国高等学校長協会 関東地区高等学校PTA連合会

千葉県 千葉県教育委員会 千葉市 千葉市教育委員会 千葉県高等学校長協会

千葉県高等学校教頭・副校長協会 千葉県公立学校事務長会 千葉テレビ放送株式会社

株式会社千葉日報社 朝日新聞社千葉総局 読売新聞社 毎日新聞社

産経新聞社千葉総局 東京新聞千葉支局

大会内容・会場等

8月25日(木)

開会式、全体会、表彰式等

◎メイン会場:幕張イベントホール ◎サブ会場:国際展示場9ホール

分 科 会

- ■全国高P連研究発表 幕張イベントホール ~ 進路選択と親子のコミュニケーション~
- ■第1分科会 国際展示場9ホール 学校教育とPTA ~再発見!愛 グローバル化に対応した資質・能力を育む~
- ■第2分科会 国際展示場2ホール 進路指導とPTA ~再発見!愛 希望進路を実現する進路指導~
- ■第3分科会 国際展示場3ホール 生徒指導とPTA ~再発見!愛 思いやりのある「豊かな心」を育む生徒指導~
- ■第4分科会 国際会議場コンベンションホール 家庭教育とPTA ~再発見!愛 多様化する情報社会における青少年の健全育成~
- ■特別第1分科会 アパホテル&リゾート 東京ベイ幕張 ホール 学校の危機管理とPTA ~生徒指導上の諸課題解決のために~
- ■特別第2分科会 ホテルニューオータニ幕張 鶴の間 情報機器と学校教育 ~高校生のスマートフォン利用の状況と必要な対応について~

8月26日(金)

記念公演 閉会式

◎メイン会場:幕張イベントホール ◎サブ会場:国際展示場9ホール

大会日程表

8:00	8月25日(木)	8月26日(金)
9:00	受付 8:30~9:00 アトラクション 9:00~9:30 (30分)	受付 8:30~9:00 アトラクション 9:00~9:30 (30分)
10:00	開会式・表彰式 9:40~10:40(60分)	記念公演 9:40~10:50(70分)
11:00	基調講演 10:50~11:50(60分)	分科会の報告 11:00~11:20 (20分) 閉会式 11:20~12:00 (40分)
12:00		11.20 912.00 (40))
13:00	昼食・アトラクション 12:00~13:00(60分)	
14:00	分科会 受付 13:00~13:30 13:30~16:00(150分) 全国高P連研究発表 第1分科会	
15:00	第 2 分科会 第 3 分科会 	
16:00		

大会第1日目 8月25日(木)

1 開会式、全体会、表彰式等

(メイン) 幕張イベントホール (サ ブ) 国際展示場 9 ホール

次第	時間	出席者
受 付	8:30~	
アトラクション	9:00~9:30	メイン会場:柏市立柏高等学校 吹奏楽部 サブ会場:習志野市立習志野高等学校 吹奏楽部
開会式	9:40~10:40	
①開式の辞 ②国歌斉唱		千葉大会実行委員会副委員長 田 順光
③実行委員長開会の挨拶		千葉大会実行委員会委員長 大木 幸夫
④大会会長式辞		(一社) 全国高等学校 P T A 連合会会長 佐野 元彦
⑤来賓祝辞		文部科学大臣 松野 博一 様 千葉県知事 森田 健作 様 千葉市長 熊谷 俊人 様
⑥来賓紹介		
⑦表彰式		文部科学大臣、(一社)全国高等学校 P T A 連合会会長、受賞者
⑧閉式の辞		千葉大会実行委員会副委員長 小池 隆
基調講演	10:50~11:50	千葉敬愛短期大学 学長 明石 要一 氏 演題:「高校生の自立を支援する PT A活動の在り方」 ~今こそ信じよう高校生を~
アトラクション	12:00~13:00	メイン会場 千葉県立八千代高等学校 岡谷柚奈 (大会テーマソング) 千葉県立東金高等学校 筝曲部 サ ブ 会 場 千葉県立富里高等学校 ジャズ・オーケストラ部 千葉県立八千代高等学校 岡谷柚奈 (大会テーマソング)

2 分科会

次第	時 間	備考
受付	13:00~	
分科会発表	13:30~16:00	分科会一覧(64頁)参照

大会第2日目 8月26日 (金)

記念公演 閉会式

(メイン) 幕張イベントホール (サ ブ) 国際展示場 9 ホール

次第	時 間	出席者
受 付	8:30~	
アトラクション	9:00~9:30	メイン会場:千葉県立八千代高等学校 鼓組 サ ブ 会 場:千葉県立松戸国際高等学校 バトン部・ダンス同好会
記念公演	9:40~10:50	女優 市原 悦子 氏 「私の選んだ女優の道」
分科会の報告	11:00~11:20	全国高P連研究発表 全P理事 野田 誠 第1分科会 "大石 幸和 章報 第2分科会 "風部 幸博 当時 第3分科会 "Ш部 公寬 当時 特別第1分科会 "川原 慎一 中別第2分科会 特別第2分科会 "森野 真
閉会式	11:20~12:00	
①開式の辞		千葉大会実行委員会副委員長 湯井 隆子
②大会会長閉会の挨拶		(一社)全国高等学校 P T A 連合会会長 佐野 元彦
③大会宣言採択		千葉大会実行委員会副委員長 金子 浩章
④全国高 P 連旗返還		千葉大会実行委員会委員長 大木 幸夫
⑤全国高 P 連旗授与		全高 P 連会長から静岡県公立高等学校 P T A 連合会会長
⑥次期開催地挨拶		第67回静岡大会実行委員長 杉浦 政紀
⑦実行委員長閉会の挨拶		千葉大会実行委員会委員長 大木 幸夫
⑧閉式の辞		千葉大会実行委員会副委員長 水野 恭成

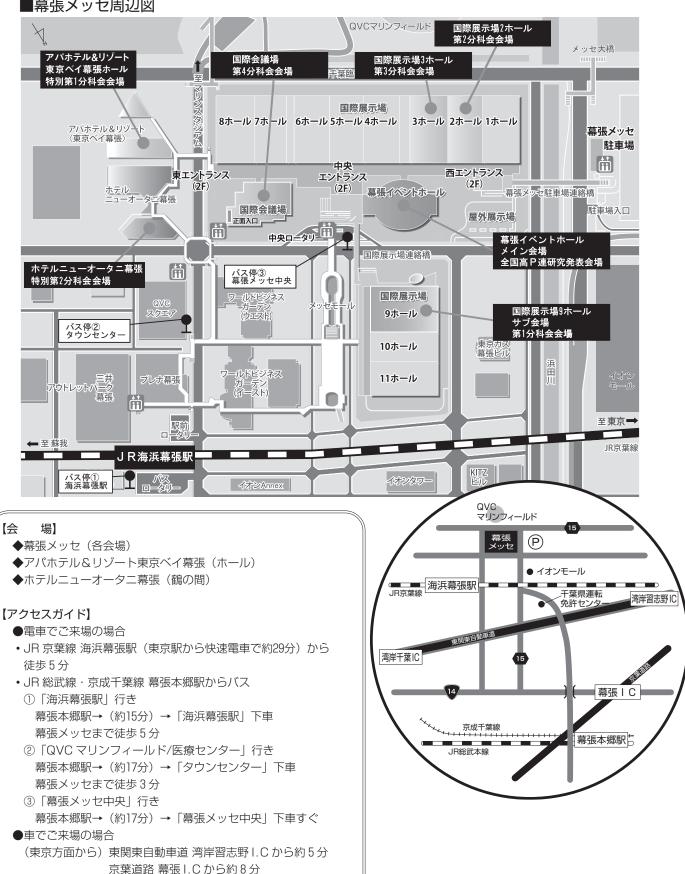
会場へのアクセス

千葉大会は会場が最寄駅から徒歩圏内のため、シャトルバスの設定はございません。会場周辺はかなりの混雑が予想されますので、極力公共交通機関をご利用いただきますようお願いいたします。

■実施会場

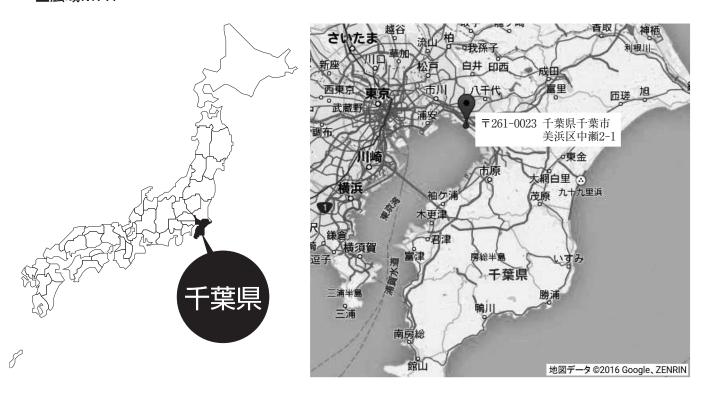
全体	メイン会場	幕張イベントホール				
体会	サブ会場	国際展示場9ホール				
	全国高P連研究発表	幕張イベントホール	〈幕張メッセ〉			
	第1分科会	国際展示場 9 ホール	〒261-0023 千葉県千葉市美浜区 中瀬2-1			
分	第2分科会	国際展示場 2 ホール	TEL 043-296-0001			
科	第3分科会	国際展示場3ホール				
会	第4分科会	国 際 会 議 場 コンベンションホール				
	特別第1分科会	〈アパホテル&リゾート 〒261-0021 千葉県千葉 TEL 043-296-1111				
	特別第2分科会	〈ホテルニューオータニ幕張 鶴の間〉 〒261-0021 千葉県千葉市美浜区ひび野2-120-3 TEL 043-297-7777				

■幕張メッセ周辺図

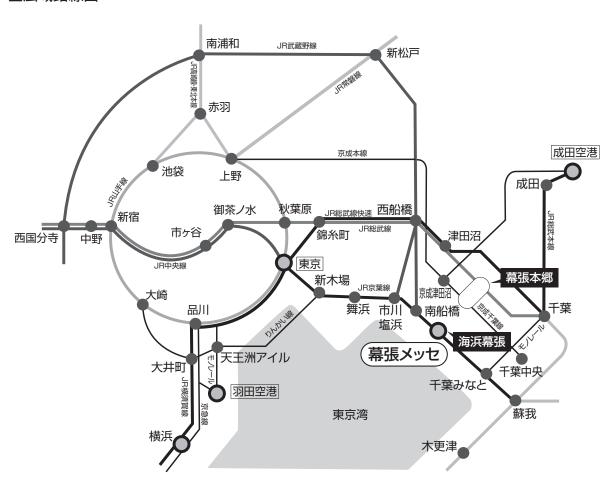


(千葉方面から) 東関東自動車道 湾岸千葉 I.C から約5分 京葉道路 幕張 I.C から約8分

■広域MAP



■広域路線図



大会役員名簿

大 会 役 員						
大会会長	佐 野	元 彦	全国高等学校 PTA 連合会会長			
大会副会長	牧 田	和樹	全国高等学校 PTA 連合会副会長			
	森﨑	綾 子	全国高等学校 PTA 連合会副会長			
大会運営委員	木戸	浩 久	全国高等学校 PTA 連合会専務理事			
	内田	志づ子	全国高等学校 PTA 連合会常務理事			
	泉	満	全国高等学校 PTA 連合会理事、健全育成委員長			
	野田	誠	全国高等学校 PTA 連合会理事、進路対策委員長			
	川原	慎 一	全国高等学校 PTA 連合会理事、調査広報委員長			
	池本	義信	全国高等学校 PTA 連合会理事、研修委員長			
	山本	富造	全国高等学校 PTA 連合会理事			
	山野	公 寛	全国高等学校 PTA 連合会理事			
	大 石	幸和	全国高等学校 PTA 連合会理事			
	増永	哲 也	全国高等学校 PTA 連合会理事			
	杉浦	政 紀	全国高等学校 PTA 連合会理事			
	森野	真	全国高等学校 PTA 連合会理事			
	川部	幸博	全国高等学校 PTA 連合会理事			
	小山	全 司	全国高等学校 PTA 連合会研修委員会副委員長			
	福井	玲 子	全国高等学校 PTA 連合会研修委員			
	大溝	雅昭	全国高等学校 PTA 連合会研修委員			
	村太	健 二	全国高等学校 PTA 連合会研修委員			
	ЩП	享	全国高等学校 PTA 連合会研修委員			
	川北	恭 弘	全国高等学校 PTA 連合会研修委員			
	伊東	猛彦	全国高等学校 PTA 連合会研修委員			

監	監 事 坂井正人		全国高等学校 PTA 連合会代表監事
		北村正次	全国高等学校 PTA 連合会監事

	全 国 高 P 連 事 務 局
事務局長	内田志づ子
事務局次長	菊 池 修
事務局員	入 野 登代子

千葉県高等学校PTA連合会千葉大会実行委員会名簿

		会 実 行 委 員
委員長	大木幸夫	千葉県立八千代高等学校(26~県連会長)
副委員長		千葉県立浦安南高等学校元副会長
	田鎖美穂	千葉県立浦安南高等学校元会長
		千葉県立柏高等学校元会長
	松本吉充	
	小池隆	千葉県立鎌ヶ谷西高等学校元会長
	菅 澤 朱 美	千葉県立鎌ヶ谷西高等学校元副会長
	金子浩章	千葉県立下総高等学校元会長
	志鎌敏彦	千葉県立若松高等学校校長
	湯井隆子	千葉県立流山おおたかの森高等学校前副会長
	榎 本 彰	千葉県立流山おおたかの森高等学校会長
	田順光	千葉県立小見川高等学校元会長
	平井敏一	千葉県立千城台高等学校校長
	根本哲一	千葉県立木更津高等学校校長
	髙橋誠止	千葉県立佐倉高等学校会長
	森 山 理 恵	千葉県立佐倉高等学校副会長
	宮 原 政 志	千葉県立東金高等学校会長
	岩瀬俊彦	千葉県立生浜高等学校校長
委員	錦見正治	千葉県立九十九里高等学校元会長
	小野祐司	千葉県立柏高等学校校長
	宮崎祐二	千葉県立木更津東高等学校元会長
	吉野正展	千葉県立大多喜高等学校元会長
	小川輝男	千葉県立市川東高等学校校長
	深山康彦	千葉県立市原高等学校前会長
	小 西 則 子	千葉県立佐原白楊高等学校校長
	鈴 木 誠 一	千葉県立下総高等学校校長
	平野恵子	千葉県立姉崎高等学校校長
	丸木裕文	千葉県立千葉南高等学校校長
	青木正寿	千葉県立茂原高等学校校長
	本田秀年	千葉県立館山総合高等学校前会長
	鈴木清史	千葉県立船橋東高等学校校長
	上代真澄	千葉県立成東高等学校校長
	新延美恵子	千葉県立上総高等学校会長
	田邊昭雄	千葉県立国分高等学校校長
	大 﨑 裕 里 浅 野 照 久	千葉県立小金高等学校会長 - 千葉県立大原享等学校校長
	浅 野 照 久 末 永 奈穂子	千葉県立大原高等学校校長 千葉県立八千代高等学校教頭
		T桌桌並八十八高等字校教頭
		「
		- 千葉県立柏高等学校教諭
	サイス 関	千葉県立千葉商高等学校教諭
		千葉県立鎌ヶ谷西高等学校教諭
	74	1 木小工M/ 口凹回寸丁以外剛

	千葉大会実行委員						
委	員	田	中	桜	子	千葉県立下総高等学校教諭	
		前	橋	未	来	千葉県立浦安高等学校教諭	
		丸		健	_	千葉県立大多喜高等学校教諭	
		田	邉		学	千葉県立市原高等学校教諭	
		秋	葉	章	=	千葉県立佐原白楊高等学校教諭	
		前	田		等	千葉県立市原八幡高等学校教諭	
		八	木	朋	浩	千葉県立市原八幡高等学校教諭	
会	計	Щ	田	尚	子	千葉県立国府台高等学校前会長	
		小	Щ	和	広	千葉県立つくし特別支援学校事務主幹兼事務長	
監	事	小	髙	正	之	千葉県立千葉高等学校(25県連会長)	
		鈴	木	_	紀	千葉県立船橋北高等学校事務長	
顧	問	鈴	木	政	男	千葉県高等学校長協会会長	
		石	井	博	臣	千葉県立安房高等学校(22県連会長)	
		白	井		1	千葉県立天羽高等学校(23県連会長)	
		髙	橋	孝	宏	千葉県立姉崎高等学校(24県連会長)	

実 行 委 員 会 事 務 局						
事務局	林修一	千葉県高等学校PTA連合会事務局長				
	佐々木 純	千葉県高等学校PTA連合会全国千葉大会担当				
	中 村 幸 子	千葉県高等学校PTA連合会職員				
	杉 本 しのぶ	千葉県高等学校PTA連合会職員				
	山野井 眞 弓	千葉県高等学校PTA連合会職員				

合計62名



第 66 回 全国高等学校PTA連合会大会 千葉大会

開会式· 表彰式



「再発見!愛」 💫

~今こそ信じよう愛の絆~

開会式・表彰式

1 開式の辞

司会 お時間になりましたので開会させて頂きます。私は本日の司会進行役を務めさせて頂きます 徳永由美子と申します。どうぞよろしくお願い致 します。

同じく進行役を務めます、近藤直弘と申します。 よろしくお願い致します。

それでは開式に際しまして千葉大会実行委員会 副委員長の田 順光より開式のことばを申し上げ ます。

田 順光 皆さまおはようございます。ただいまご紹介いただきました、田んぼの田と書いてでんと申します。珍しい名字なので覚えていただけるかと思います。本日は全国より約1万人の皆さまが、農業と漁業の盛んな食の宝庫千葉へおいでいただき誠にありがとうございます。心より歓迎申し上げます。それではただいまより、第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会の開会式を挙行いたします。

<u>2</u> 国歌斉唱

司会 続きまして、国歌を斉唱致します。メイン 会場・サブ会場の皆さま、ご起立をお願い致しま す。

(国歌斉唱)

ご着席下さい。

3 大会実行委員長挨拶

司会 引き続きまして、千葉大会実行委員会委員 長であります大木幸夫よりご挨拶を申し上げま す。

大木幸夫 ようこそ、千葉へお越しいただきました。全国より1万人を超える参加をいただいております。本日この千葉大会を迎えるに当たって約3年間、われわれ実行委員会は準備を進めてまい

りました。完璧とまではいきませんが、一生懸命、 気持ちを込めて準備を整えてきたつもりです。た だ千葉県での全国大会は初めてということもあ り、至らぬ点も多々あるかと思います。その点、 ご容赦いただけきますようお願いいたします。

一生懸命準備をしてきましたけれども、一つだけ忘れていたものがありました。この場で私は挨拶をしなければならないということを忘れておりました。ですから、今、実行委員長としてこの場に立ってみて、あふれんばかりに湧きあがってきている思いを述べさせていただこうと思います。

皆様、本日は遠いところからご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中ご臨席を賜りました文部科学大臣 松野博一様、千葉県知事 森田健作様、千葉市長 熊谷俊人様をはじめ多くのご来賓の方々にも、厚く御礼申し上げます。

ご覧ください。皆様から向かって左手です。皆様を歓迎する千葉のゆるキャラがおります。千葉県公認のゆるキャラを紹介したいと思います。舞台の左手で、今、手を振っておりますが、ご存じの方も多いと思います。チーバくんです。皆様を歓迎するために会場内をあちらこちらとお散歩しております。是非ごいっしょに記念撮影をしていただければと思います。そして、地元にお帰りになったときに、千葉県の「チーバくん」をアピールしていただくとありがたいです。有名な「くまモン」に負けないぐらい全国的なキャラクターとして、もっともっと押し上げていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。チーバくん、ありがとうございました。

さて、今回のメインテーマは、「再発見!愛」~ 今こそ信じよう愛の絆~ということで、キーワードを「愛」という言葉にさせていただきました。 私は千葉県出身です。千葉県の高校の先生から教 わったことばがあります。それは千葉県立幕張総 合高等学校で野球部の部長をされている柳田大輔 先生のお話の中にこの「愛」という言葉がありま した。柳田先生は生徒たちに、「おまえたちはな ぜ勝てないかわかるか。心技体ということを、ス

ポーツではよく言うだろう。心技体の充実を目指 している。そこを目指している人たちは、いっぱ いいる。ただ、人としてスポーツマンとして勝つ ためには、それだけじゃ足りないんだ。一流の選 手に何があるかわかるか。」と子どもたちに問い かけたそうです。先生の答えは、「心技体、そして 『愛』がないと駄目だ。」と教えてくださったそう です。この「愛」という言葉の中には、ものすご くいろいろな意味がこもっています。仲間を大切 にする思いやりの愛だとか、もちろん多感な高校 生ですから、好きな男の子、好きな女の子もいる でしょう。自分の大事な人、好きな人を思う気持 ち、それから、親やお世話になった人への感謝の 気持ち、そして、自分自身を誇れる人間にする、 そういう気持ち、こういう気持ちすべてを持たな いと勝てるチームにはなれないんだということ を、子ども達が教わりました。そして、その言葉 に子ども達が感動して、その思いを胸に部活に励 むようになったそうです。私も息子からその話し を聞いたときに、何て素敵な言葉なんだ。何で 「愛」に気が付かなかったんだろうと思いました。 「愛」というのは、何かその辺にいっぱい満ちあふ れているような気がしますけれども、いつの間に か「愛」を忘れがちな、ともすると後回しにしが ちな大人になっていたなと思いました。

子ども達は、よく勉強して、これから先の人生を幸せなものにしていって欲しい。たくさんのことを身に付けて欲しい。親であるならばそう願います。しかし、ただ自分の子さえよくなればよいと頑張るよりも、親も子も何か人のために、何か世の中のために、そして愛のために頑張る。頑張りたい。そう思うことで私たちに意欲や行動する力が湧きあがり、豊かな社会を築いていけるのではないでしょうか。そう思いまして、今回「愛」というキーワードをテーマとさせていただきました。

これから始まる研究発表の中で何か皆さんが一つでも、「愛」や「絆」を感じていただける大会になったら、とてもうれしく思います。今日明日と、 千葉を思いっきり楽しんでいただき、たくさんの体験談や情報を持ち帰ってください。どうぞよろ しくお願いいたします。

4 大会会長式辞

司会 続きまして本大会の会長であります、一般 社団法人全国高等学校PTA連合会会長佐野元彦 より式辞を申し上げます。

佐野元彦【前述・P26掲載】

5 来賓祝辞

司会 本日は、「第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会」の開会にあたりまして、ご多用の中、多数のご来賓の方々にご臨席を賜っております。ここでご臨席の皆様方よりご祝辞を頂戴致します。はじめに、文部科学大臣 松野博一様よりご祝辞を頂戴致します。松野様、よろしくお願い致します。

松野博一【前述・P28掲載】

司会 松野様、ありがとうございました。続きまして、千葉県知事 森田健作様よりご祝辞を頂戴 致します。森田様、よろしくお願い致します。

森田健作【前述・P29掲載】

司会 森田様ありがとうございました。なお、森田知事は公務のご都合上、ここで御退席となります。皆さま拍手でお送り下さい。では続きまして、千葉市長 熊谷俊人様よりご祝辞を頂戴致します。熊谷様、よろしくお願い致します。

熊谷俊人【前述・P31掲載】

司会 熊谷様、ありがとうございました。以上ご 来賓の皆さまを代表致しまして3名の方よりご祝 辞を頂戴致しました。

6 来賓紹介

司会 ただいまご祝辞を賜りました方々を含め、本日の大会にはたくさんの方にご臨席を頂いております。ここで千葉大会実行委員会副委員長の髙 橋誠止よりご来賓の皆様方をご紹介申し上げます。

高橋誠止 大会実行副委員長の髙橋と申します。 ご来賓方々のご紹介を申し上げます。文部科学大 臣 松野博一様、千葉市長 熊谷俊人様、千葉県知 事 森田健作様におかれましては、ご祝辞を頂い たのち、別の公務のためご退席されております。 文部科学省生涯学習政策局長 有松育子様、文部 科学省生涯学習政策局社会教育課長 西井知紀様、 千葉県教育委員会教育長 内藤敏也様、千葉市教 育委員会教育長 志村 修様、千葉県生涯学習課課 長 内藤正寿様、全国高等学校長協会会長 宮本久 也様、日本PTA全国協議会会長 寺本 充様。

ご来賓の皆さまには公私ともにご多忙の中、本 大会開会式にご臨席賜り厚く御礼申し上げます。 ありがとうございました。

司会 以上、本日ご臨席を賜りましたご来賓の皆 さまをご紹介させて頂きました。

7 表彰式

司会 これより、PTA活動に多大な功績を収められた団体に対する優良PTA文部科学大臣表彰、および全国高等学校PTA連合会の活動・発展に多大な功績を収められた、個人・団体・役員などに対する一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長表彰を行います。

はじめに優良PTA 文部科学大臣表彰を行います。受賞された皆さまはスクリーンでご紹介致します。また、お手元の大会要項にも掲載してあります。表彰状は文部科学大臣 松野博一様より授与致します。それでは受賞団体を代表して「東京都立富士高等学校・東京都立富士高等学校附属中学校父母と先生の会」の砂金 達様に授与致し

ます。砂金様、どうぞステージにお越し下さい。受 賞される団体の皆さまはその場でお立ちください。

松野博一 表彰状。東京都立富士高等学校・東京都立富士高等学校附属中学校父母と先生の会殿。 貴団体は、会員の熱意と協力により、優れたPT A活動を行い、顕著な業績を挙げられました。こ こに奨励のため、これを表彰します。平成28年8 月25日。文部科学大臣 松野博一。おめでとうございます。

司会 受賞された団体の皆さま、おめでとうございます。松野様はお席にお戻り下さい。会場内の 受賞団体の皆さまは、どうぞご着席ください。

続きまして、全国高等学校PTA連合会の活動・発展に多大な功績を収められた、個人・団体・役員などに対する一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長表彰を行います。

まずはじめに、個人の部から行います。受賞された皆さまをスクリーンでご紹介致します。また、お手元の大会要項にも掲載してあります。表彰状は、一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長 佐野元彦より授与致します。佐野会長、センターへお越し下さい。まず個人の部の受賞者の皆さまの代表と致しまして、千葉県立千葉中学校・高等学校PTA会長 小高正之様に表彰状を授与致します。小髙様、どうぞステージにお越し下さい。受賞されました他の皆さまはその場でご起立ねがいます。

佐野元彦 表彰状。千葉県立千葉中学校・高等学校 小高正之様。あなたは、その優れた活動を通して、生徒の健全育成と地域の高等学校教育の振興に多大な貢献をされました。ここに、第66回全国高等学校 PTA連合会千葉大会の開催にあたり、その功績をたたえ、表彰致します。平成28年8月25日。一般社団法人全国高等学校 PTA連合会会長佐野元彦。ありがとうございました。

司会 小髙様、そして会長表彰・個人の部を受賞

された皆さま、おめでとうございます。佐野会長 はそのままステージでお待ち下さい。会場内の受 賞者の皆さまはどうぞご着席ください。

続きまして、一般社団法人全国高等学校PTA 連合会会長表彰の団体の部の表彰を行います。受 賞された皆さまをスクリーンでご紹介致します。

それでは団体の部の皆さまの代表と致しまして 千葉県立成東高等学校 P T A 川島正博様に表彰 状を授与致します。川島様、どうぞステージにお 越しください。受賞された団体の皆さまは、その 場でご起立下さい。

佐野元彦 表彰状。千葉県立成東高等学校PTA 様。貴団体は、その優れた活動を通して、生徒の 健全育成と地域の高等学校教育の振興に多大な貢 献をされました。ここに、第66回全国高等学校P TA連合会大会千葉大会の開催にあたり、その功 績をたたえ、表彰致します。平成28年8月25日。 一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長 佐 野元彦。大変ありがとうございました。

司会 川島様、そして会長表彰・団体の部を受賞 された皆さま、誠におめでとうございます。佐野 会長はそのままステージでお待ちください。会場 内の受賞団体の皆さまは、どうぞご着席ください。

続きまして一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長表彰、役員・事務職員の部の表彰に移ります。受賞された皆さまをスクリーンでご紹介致します。

受賞された皆さまを代表致しまして、前一般社団法人全国高等学校PTA連合会副会長 椎野正敬様に表彰状を授与致します。椎野様、どうぞステージにお越し下さい。受賞された皆さまはその場でご起立ください。

佐野元彦 表彰状。椎野正敬様。あなたは、全国高等学校PTA連合会役員として、本連合会の発展に努め、高等学校教育の振興に多大な貢献をされました。ここに第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会の開催にあたり、その功績をたた

え、表彰致します。平成28年8月25日。一般社団 法人全国高等学校PTA連合会会長 佐野元彦。 大変ありがとうございました。

司会 椎野様、受賞者の皆さまおめでとうございました。会場内の受賞者の皆さまも、どうぞご着席ください。また、佐野会長もありがとうございました。

それでは、本日ここに受賞されました個人・団 体を代表して、椎野正敬様が謝辞を述べられます。

椎野正敬 本日の受賞者を代表いたしまして、一 言ご挨拶させていただきたいと思います。

本日はこのような、素晴らしい、また名誉ある 賞を素晴らしい晴れの舞台で受賞させていただき まして誠にありがとうございます。全国高P連そ して本日ご参加の皆さま方、何よりも千葉県連の 実行委員会の皆さまには厚く御礼を申し上げたい と思います。ありがとうございます。

私も数年に渡りまして、高P連活動に携わらせ ていただきました。その中でPTA活動をさせて いただきながら、いろんなことを学ぶことが出来 ました。その中の一つに「ONE FOR ALL ALL FOR ONE」よくスポーツの場で耳にする言葉だ と思います。PTA活動は決してそうではない。 一人のためでもなく、そしてまた一人がやるので もなく、みんながみんなの為に「EVERYONE FOR ALL」とでも申しましょうか、みんながみん なの為に活動を行う。みんなと言うのは本日のこ の1万人の皆さま方だけではございません。1万 人が2万人に、2万人が4万人にという輪をつな げていく、それがみんなであります。そしてみん なのために、高校生のため、いや全国の高校生の ためだけではありません。未来の高校生のためで もあります。それがみんなの為です。みんながみ んなの為に「EVERYONE FOR ALL」の精神で活 動を行っていただきたいという私からの小さな願 いでございます。

そして何よりも本日素晴らしい賞を受賞させて いただきましたことに、ありきたりではごさいま すが、「ありがとう」という言葉で代表させていただきましたお礼の言葉に代えさせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

司会 椎野様ありがとうございました。受賞された皆さまに、今一度大きな拍手をお願いいたします。代表者の皆さま、どうぞお席にお戻り下さい。 続きまして、特別感謝状が贈呈されます。プレゼンターは引き続き、佐野会長にお願いいたします。今回特別感謝状をお送りするのは、岩手県高等学校PTA連合会と、第65回全国大会岩手大会実行委員会委員長の渡辺正和様です。岩手県高P連を代表して朽木聖好様、そして渡辺様、どうぞステージにお越しください。それではまず、朽木様に感謝状の授与です。

佐野元彦 特別感謝状。岩手県高等学校PTA連合会様。貴会は第65回全国高等学校PTA連合会大会に組織の総力を挙げて取り組まれ、多大な成果を収められました。その功績に対し、深甚なる感謝の意を表します。平成28年8月25日。一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長 佐野元彦。昨年は大変ありがとうございました。

司会 続きまして渡辺様へ感謝状の授与になります。

佐野元彦 特別表彰状。第65回全国高等学校PTA連合会大会岩手大会実行委員長 渡辺正和様。あなたは、第65回全国高等学校PTA連合会大会において大会の企画運営を指導され、多大な成果を収められました。その功績に対し、深甚なる感謝の意を表します。平成28年8月25日。一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長 佐野元彦。大変ありがとうございました。

司会 朽木様、渡辺様、ありがとうございました。 どうぞお席にお戻り下さい。佐野会長もお席にお 戻りください。

8 閉式の辞

司会 おかげさまで第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会開会式も滞りなく進んで参りました。最後に、千葉大会実行委員会副委員長 小池 隆より閉式のことばを申し上げます。

小池 隆 受賞者の皆さま大変おめでとうございます。この後も2日間に渡って、素晴らしい講演や有意義な分科会をご用意しております。どうぞ、この千葉の地で学んで全国へお帰りください。以上をもちまして第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会の開会式を終わります。

司会 皆様方には、長時間にわたりご協力頂きまして、誠にありがとうございました。

第 66 回 全国高等学校PTA連合会大会 千葉大会

基調講演· 記念公演



「再発見!愛」

~今こそ信じよう愛の絆~

基調講演



講演者

千葉敬愛短期大学 学 長

剪石 要一氏

高校生の自立を支援するPTA活動の在り方 ~今こそ信じよう高校生を~

ただ今、紹介いただきました、千葉敬愛短期大学学長の明石でございます。昭和23年のねずみ生まれでございます。誕生日がいい日で、1月の17日なんですね。あの山口百恵さんと同じ誕生日です。笑ってくれた方は、50歳以上の方ですよね。21年前の阪神・淡路大震災も同じ日に大震災がございました。アメリカ大統領のオバマさんの奥さんも同じ誕生日です。そういう星の下の明石と、60分ほどのお付き合いをお願いいたします。

最初に、じゃんけんグーをお願いします。ちょっとお願いします。じゃんけんグー。できましたら、隣前後の女性のグーのかたちを見てほしいんです。親指が外側のグーの女性と、親指が中に入った女性の方と、親指が真ん中の人がいます。わかりますかね、こういう三通りのグーのかたちがあるんです。男性の方は、外側のグーが多いはずです。ほぼ98%の男性は、外側のグーなんです。ですけども、女性の方は、三通りに分かれます。

ただし、今日おみえの女性の方は、外側のグーが多いはずです。この、女性の方のグーのかたちで、性格がわかるんですよ。もう変更はしては駄目ですよ。多分、今日、おみえの方は、外側が多いんです。この女性の方は、今ではありません。昔、小学校2年、3年生ごろは、負けず嫌いのお嬢さんだった。例えば、明日運動会よといった夜、一生懸命腹筋して頑張るお嬢さんね。みんなが来

てくれると頑張れるお嬢さんが外側なんです。

で、中学校、高校時代、進路でお父さんとぶつかっています。お父さんが「女の幸せは結婚よ」、「違う。お父さん、私、仕事したい」と口答えをしました。非常に前向きで、キャリア志向の女性が外側なんです。それで、結婚は、恋愛結婚が多いんですよ。だけど、最近、ちょっぴり反省している。あの旦那、まずかったかな。いや、だけど、結婚とはこんなもんよ。切り替えが早い。非常に明るくて、前向きで、頑張る女性が外側なんですよ。その対極の方が内側の方。少ないんです。全体で大体10%ぐらい。この方は、良妻賢母。上品で気品があるんですよ。もう変更しないでくださいよ。

ただし、内側の女性の方は、友達は少ない。読書が好き、編み物が好き、レコードを聴くのが好き。自分の世界をつくるのが上手なんです。ですから、若いときは、お父さんとぶつかっていません。親の言う通りの人生を歩んできました。結婚も、大体見合い結婚が多いんです。それで、結婚した旦那が飲んべえの場合は、水差しを置いています。おしぼりを置いています。良妻賢母でしょうから、水差しとおしぼりを置いている。ふすまを開ける場合は、膝を折って開けます。逆に、外側のグーのお母さんは、ふすまを開ける場合は、足で開けます。これは、みんなタイプが違うんで

すから。

それで、真ん中の人、この方は、大体2割から3割ぐらい。知的能力が高い。非常に頭が柔らかいんです。柔軟性があって、アンテナは高い。いろんな情報をキャッチするのが得意なんです。これは、全然根拠はないですよ。根拠はないんだけども、何回もやってみると、同じ結果になる。こういうのを経験則と申します。家庭教育とか、PTA活動というのは、経験則だと思います。因果関係ははっきりわからないけども、何回もやってみると、同じ結果になる。

そこで、このじゃんけんグーが使えるのが、P TA役員を決めるときなんですよ。本部役員の会 長と副会長は、前の会長と教頭先生が、1年かけ て説得します。一番難しいのは、中学校と高等学 校の学級役員を3名決めるときなんですよ。

例えば、中学校で申しますと、入学式が終わります。生徒を部屋に帰したら、体育館のドアを閉める。それはお父さん、お母さんが逃げないようにするためです。それで、ここが1組ですよ、2組ですよとかいって座ってもらって、担任が、「お父さん、お母さん、学級役員を3人決めてください」と言うと、みんな下を向くんです。下を向くんだけど、じゃんけんグーの外側のお母さんは、もういらいらして、ちょっとあんた、しゃべりなさい、とかね、同じ小学校から上がったお母さんと、ブロックサインで意思をはかります。

いや、いやと言いますけども、外側のお母さんは、役員をやってくれます。なぜかといいますと、幼稚園、保育園、小学校で、ものすごく役員をやってきているんですよ。もう早く決めたいのね。だから、これからは、高等学校の学級役員を決めるときは、じゃんけんグーをしてください。外側のお母さんが、お父さんを含めてですよ、クラスのPTAの学級代表。内側のお母さんは、上品で、人前では話すのは嫌だけども、PTA会報を作るのが上手ね。デスクワークがうまいんです。

で、真ん中のお母さんは、お父さんを含めて、 アンテナが高いから、情報を集めるのが上手なん です。お願いしたいのは、1人が三役やると大変 だけども、3人が力を合わせて頑張るとPTA活動は楽しいんですよね。ぜひ、これからは、じゃんけんグーがキーワードね。

赤ちゃんは、親指を中に入れて生まれてくるそうです。にぎにぎしながら、これで終わる女性と、外に出る女性と、真ん中で分かれる。

では、もう一つ、こんにちはとお辞儀いたします。右手が前でしょうか。左手が前でしょうか。 ちょっとお願いします。お辞儀される場合の仕方。これは、右手が前は、いけないんですよね。 多くの方は、右手が利き手です。前にあると、相手に敵意を持っているんです。そうすると、左手が前でお辞儀をするんですね。これが礼儀作法と言われます。日本人は、そういう作法を大事にします。

もう一つ、この壇上を、上手から上がる場合に、 ちょっとよろしいでしょうか。右足から上がる先 生と、左足から上がる先生がいますよね。どちら の先生が皆さんを大事にしているか。ちょっとお 隣で相談してくれます?右で上がる先生と左から 上がる先生。

もうおわかりですよね。右足から上がる先生がいいんですよね。左足の場合は、お尻を皆さまに向けているんです。だから、これから、校長先生が入学式で上がってくる場合、よく見てくださいよ。本当に生徒を大事にしている校長さんか、口だけの先生か、わかるんですよ。

例えば、もう一つ、黒板を消す先生がいらっしゃいます。二通りいらっしゃいます。縦に黒板を消す先生と、横に消す先生がいらっしゃいます。どちらの先生が、生徒を大事にしているでしょうか。 ちょっとこれも相談してくれますか。縦と横。

これは、縦がいいんですよね。一般的に申しますと、小学校の先生は、縦に消す人が多いんです。大学は、大体横に消していますよ。だから、縦に消す先生が子どもを大事にしているんですよ。全部チョークを下に下ろす先生、そうすると、後ろの方が見えやすいんです。横に消す人は、真ん中にチョークがたまるから、後ろの方は、見えにくいという。

今日お願いしたいのは、こういうのを、観察と 言います。ウオッチングをしながら子どもを理解 してほしい、人間を理解してほしいということで、 観察が大事なんです。

そういう頭の体操が終わりまして、よく時代が変わったと言います。今日お願いしたいのは、時代が変わったことを、一言で説明する練習をしてほしいんです。私は、こう言います。戦後71年間、時代は変わりました。親戚が減りました。なるほど、親戚が減ってきました。親戚の代表は、「いとこ」ですよね。いとこが何人いらっしゃるか。父方と母方で、ちょっと頭に描いていただけますか。いとこが何人いらっしゃるか。父

私は、森田県知事と同じように、団塊の世代。この団塊の世代は、一般的に申しますと、30人のいとこがいるんですよ。私のおふくろは、9人きょうだい。おやじが6人きょうだいですから、もう、すぐ30人に達します。36歳、7歳、8歳の団塊ジュニアの世代は、いとこが10人程度なんです。

それで、孫がいますけれども、孫の世代は、残念ながら、いとこはゼロなんですよ。この戦後71年間、いとこが減ってきたんですよ。言うならば、親族が減ってきた。だから、非常に今の子どもたちの成長するスタイルが変わってきたんです。ちょっと専門的ですけども、教育というのは、縦の関係と横の関係が多いですよね。家庭教育は、親子関係。学校も、先生と生徒の関係は縦、クラスメートは横関係。ナナメの関係が、今はないんです。今日おみえの50歳以上の方は、縦と横があって、斜めがあったと思うんですよ。今、一番子どもが育ちにくいのは、斜めの関係がすぽっと消えてしまったんです。

結論を申し上げますと、PTAの活動は、この 斜めの関係をつくってくれると、高校生の自立が しやすい、と思います。これまでは親には相談で きないけれど親戚のおじさん、おばさんには相談 できるとか、ちょっと年の離れたいとこの方には 相談できるという、そういういい意味での身内が あったんです。 例えば、高校ではありませんけれども小学校では地区児童会がありました。今、地区児童会がなくなりました。例えば、千葉市は、小学校が112校ありますけども、地区児童会があるのが、たった1校です。この地区児童会というのは、集団登校、集団下校をする付き合いです。今は地域の方が、セーフティーガードでサポートしています。かつては、6年生が地域の1年生、2年生の面倒を見てあげたんですよ。

じゃあ、もう一つ。皆さん方の小学校、中学校 の運動会で、地区対抗リレーは、残っているか、残っていないか。ちょっと相談してください。小学校、中学校の運動会の種目で、地区対抗リレー。かつては、地区対抗リレーがあったから、ものすごく地域が競争して燃えたんですよ。

地域が消えたというのは、子ども会とか、ボーイスカウトとか、ガールスカウト、親戚とかいう、学校と家庭では違った組織が少なくなってきた、ことなのです。今は、それがすぽっと消えてしまったから、独りぽっちの中学生、高校生たちが出現していますよね。そういう意味で、時代が変わってきたんですよということを、まず一つ、頭に入れてください。

二つ目は、子どもが変わってきました。私は、 千葉敬愛短大に来て3年目です。幼稚園、保育園 を訪問します。園長先生にお聞きしたら、この10 年間、園児の「ごっこ遊び」が変わってきた、と いうのです。10年前までは、ごっこ遊びでは物を を作る遊びが多かったんです。まな板の上にニン ジンを置いて、とんとんと切るとか、こちらのほ うには、フライパンでハンバーグを作るとかとい う、そういうままごと遊びがあった。それが10年 後の今は、物を作るごっこ遊びが消えて、「配膳遊 び」が増えているそうです。テーブルをきれいに 拭きまして、お皿を置いて、袋から買ってきたも のをてんこ盛りして、「いただきます」といって食 べるまねをするのです。

配膳遊びが主流です。何で今の幼稚園児は、配 膳遊びが主流なんでしょうか。ちょっと相談して くれますか。 もうおわかりですよね。働くお母さんが増えてまいりましたから、夕飯は、スーパーで買ってきたものを、「さあ、いらっしゃい。夕飯ですよ」、きれいにテーブルを拭いてくれて、お皿にきれいに盛り付けをして、「いただきます」という食卓が増えているのです。これはこれでいいんですけども、ちょっと視点を変えてほしいんです。朝ご飯を考えてください。大体幼児が起きる前に親が用意しているんです。保育所や学校給食の給食当番は配膳当番ですよ。作る場面は見ていないんです。そうすると、夕飯までも配膳当番が増えると、3食とも、作る場面を見ていないお子さんが出現するんですよ。これが、私は、一番怖いと思っているんです。今の幼児を取り巻く食育の環境が、ものすごく変わってきました。

もう一つ、幼稚園に行きます。幼稚園の場合は、 給食が2日間ぐらいで、お弁当が3日間とか、が 結構多いんですよね。で、ある園長がこう言いま した。「先生、この10年間、昼ご飯の弁当の匂いが 消えてきました」。10年前までは、ドアを開ける と、ハンバーグの炒めた匂いがプーンと来たんで すって。最近は、弁当の匂いが消えた。なぜ弁当 の匂いが消えたんでしょうか。ちょっと、これも、 お隣で相談していただけますか。

これも、おわかりですよね。主婦専業のお母さん方も、冷凍食品を使う率が増えてきた。だから、 手作りのものよりも、出来合いの物を炒めてくる から、匂いが消えてきたという表現を使っている んですよね。

文科省を含めて、「早寝早起き朝ごはん」というのを、10年前から、そういう国民運動を起こしておりますけども、そういう生活リズムをつくっていただきたい。特に、高校生レベルで、体力が弱いという人は「早寝早起き朝ごはん」の生活リズムができていないことがあります。

もう一つ、今の中学生、高校生はミーティングができない。物事を決めてきなさいと言うと、雑談はできるんだけども、決めきれないのです。千葉市には、JEF市原・千葉というプロサッカーのチームがあります。そこのユース育成課長さんに

お聞きしたんです。ユースの選手を、ヨーロッパに連れて練習試合に行く。サッカーで、ハーフタイムがありますね。15分間のミーティングの仕方がヨーロッパと日本は、違うらしいです。ヨーロッパの連中は、15分間17~18名集まってディスカッションして、後半の戦い方を自分たちで決めるんです。決めて、5分前に監督に来てもらって、こういうフォーメーションでいきますけども、いいでしょうかとチェックを受けて戦うのがヨーロッパ。

日本の場合は、どうしようか、こうしようか、 悩むんだけども、雑談で終わっている。すぐ、コーチ、監督が来て、「おい、みんな集まれ。いいか、 後半のフォーメーションは、こうやって戦うん だ」、全部決めてくれるんです。そうすると、日本 の子どもたちは戦える。この大きな違いを、ぜひ 頭に入れていただきたい。

日本人は人から指示されると、非常にうまくできる。自分たちが集まって、物事を決めるという体験が少ないんです。どうしていいかわからないんですよ。こういうのを、私は、指示待ち人間の中・高校生と呼んでいます。家庭の中で、物事を決める場をたくさん用意していただきたい。

三つ目。三つ目の子どもの変わったことは、「肉食女子、草食男子」という言葉をよく聞きます。20代の男たちが、肉を食べなくて、草ばっかり食べているから、元気がない。肉食女、草食男と言いますけども、今日、小学生から、肉食女、草食男は始まっているんです、ということを申し上げたい。

皆さん方の小学校で、運動会があります。 ちょっと見ていただきたいのは、応援団長です。 みんなの前で活躍する応援団長は、男か、女か。 今、結構、6年生の女性が頑張って、応援団長を やっていますよ。

次、児童会の会長さんってあります。これも、3割から3割5分ぐらいは、女性が会長をやっている。今度は、中学校にいきます。生徒会会長は、女性がものすごく頑張っています。4割ぐらい。で、中学校の合唱コンクールの指揮者、もう7割

か8割が女性ですよ。それから、英語のスピーチ コンテストも、9割が女性ね。男は、みんな口パ クですよ。人前で英語をしゃべれない。

政府が行う「少年の主張」ってあります。大体、8月、9月に県大会をやって、11月に全国大会があるんです。例えば、去年、千葉県の中学生の県代表が上がってきて、13名いました。女性が12名、男性は1名ですね。、私は、国全体の審査員を3年間やった経験があります。47都道府県から代表が来ます。で、テープ審査をして、11名選ぶんですよ。大ざっぱに言いますと、全国の県代表で、男性が7名、8名程度、女性が40名ぐらいです。その中でテープ審査をして11名選ぶんだけども、下手をすると、みんな女性になる可能性が高い。そこで、委員の間で、下駄を履かせるかという話が出始めます。下駄をはかせていませんけども、そういう議論が出るのです。

かつての高校の弁論部なんて、男たちが、全部 しゃべっていったんですよ。それが、今は、男の 元気がない。戦後71年間、私は、女性はあまり変 わっていないと思うんですよ。問題は、男が駄目 になったんですよ。この駄目な男をつくった責任 は、誰が取るべきか。ちょっと相談してください。

はい。これは、根が深いと思います。なかなかすぐには解決できない。一つだけヒントを申し上げます。男性の独りぼっちが始まったんです。いいですか、小学校高学年の男たちと、中学生、高校生を見てください。友達がいますかと言うと、95%は、友達がいると言うんですよ。では、親友はいますかと言うと、親友がいないんです。だから、人間関係がふわふわふわしています。友人関係が安定していないんですよ。極端に言いますと、1カ月間は付き合うけども、半年以上、続かない。

その点、女の子たちは、小学校の高学年から、あの3人組。強固な人間関係ね。もう、来る者拒む。去る者追っていきますよ。それが、まず、PTAも母親たちの間まで来ているね。サイズは小さいけども、3人組の強固な人間関係、非常に安定しているんですよ。だから、集団の付き合いが

うまい。男は、ふわふわふわふわしていますから、立ち位置がわからないんですよ。50歳以上の男性たちは、小学校時代にいろんな集団活動をしましたから、立ち位置がわかったんです。言い出しっペがいたり、仕切り屋がいたりですね、段取りを取るとか、そういうのを、小学生、中学生で学習しているから、高校生でも段取りができたんですよ。

ぜひ、高校教育で、男性たちにポジショニングの仕方を教えてほしいのです。おまえの立ち位置はここだよ。こういう仕事をすればいいんだよ。仕事をしたら、それを褒めてあげてほしい。そうすると、しゃきっとしてくるんですよ。

例えば、70歳を超えると、勲章を頂く条件ができますよね。69歳のおじいちゃんで手が震えた方が勲章を頂くと、しゃきっとするんですよ。男性は、本当単純です。シンプルですよ。褒めてくれれば、しゃきっとする。おばあちゃんは、褒められても、褒めなくても、しゃきっとしているんですよ。

例えば、85歳で病気で入院するおじいちゃん、おばあちゃんを思い浮かべて下さい。入院の仕方が違うんです。おばあちゃんは6人部屋に入院する場合、リンゴとミカンを持っていきます。で、みんなに配って回るね。「よろしくね」とすぐ仲間をつくるのがうまいの。そこで、必ずいいおばあちゃんがいて「明石さん、明石さん。これがナースコールよ。あの足音は、院長先生よ」と教えてくれます。病院に入ったら、15分間で適応できるのがおばあちゃんですよ。

おじいちゃんは、すぐカーテンを閉めてイヤホンでテレビを見ているね。で、看護師さんがみえて、「おじいちゃん、ああですよ、こうですよ」と手間暇かかるんだから。はい。

今日申し上げたいのは、今の小学生、中学生、 高校生の男たちは、まさに「おじいちゃん化」し ているのです。黙って座っている。手間暇かかる んですよ。その点、女性の方は、自らが意欲的に 学習しているんですよ。これからは、PTAで男 教育も、ちょっと視野に入れてほしい。 例えば、皆さん昔の小学校時代を振り返ってくださいよ。転校生が来ますよね。女性の場合は、座って、黙っていても、すぐ教科書を見せてあげたの。男は、黙って座っているだけですね。教師が「明石くん、田中君に教科書を見せてね」と頼まれると、教科書を見せたんですよ。男女で何か行動様式が違うんです。男性たちにチャンスを与えていただきたい。場数を踏む体験をさせてほしい。

次、四つ目。四つ目の子どもが変わったことは、子どもの大人化が始まったんです。簡単に言ったら、小学生、中学生、高校生が、大人と同じ生活スタイルを始めました。簡単に言うと、忙しい中・高校生が出現したんですよね。

小学校6年生、130名に聞きました。手帳を持っていますかと言うと、4割が手帳を持っているね。「遊ぼうぜ」「ちょっと待ってくれ」とかばんから手帳を出して、「月曜日、公文、水曜日、スイミング、土曜日、サッカー、野球」という。もう全部スケジュールが決まっている。そうすると、スケジュールが決まっていると、今に生きないんですよ。明日を考えて生きる人ね。明日を考える人生というのは、85歳を超えたおじいちゃん、おばあちゃんの生きがいです。彼らは今じゃないんです。明日なんです。

かつての小学生と大学生は、今に生きたんです よ。今に生きる方が減っています。すぐ明日を考 える。精いっぱい頑張るという哲学が消えてし まった。

昔、小学校2年、3年生ごろ、放課後、外遊び で遊びほうけます。そして夕飯時に、箸を持った まま眠った経験があるかないか。ちょっとお隣で 相談してください。

今の小学生、中学生は、ほとんどそういう経験をしていない。多分、50歳以上の方は、相当遊びほうけたんですよ。この遊びほうける文化を、小学校時代に体験すると、中・高校生の部活動でも頑張ってくれるんです。

だから、ぜひ、地域で、小・中・高のPTAで 連携して、夕飯時に、箸を持ったまま眠ろうぜと いう国民運動を起こしてほしい。はい。本当にも う、食べっぷりが悪いんですから、遊びっぷりも、 つき合いっぷりも悪いのです。

今日、もう結論を申し上げますと、自立する高校生は、食べっぷりがいい。遊びっぷりがいい。 付き合いっぷりがいい。この三つのぷりができる人は、自立できているんですよ。この三つのぷりは、どこも教えてくれません。学校は、その三つのぷりを教えてくれなかった。みんな自分たちで獲得してきましたよね。それがやっぱり自立する高校生だと思っているんです。そういう意味で、放課後の世界を大事にしてほしいのです。

5番目に男子高校生をちょっと思い浮かべてください。生活するのに、1日に三つの言葉しか使わない。何と何と何という言葉を使うんでしょうか。ちょっと相談してください。親に対して使う言葉は、三つ。

もうおわかりですよね。一つは、飯(めし)。おなかがすいたから、飯。二つ目は、うるさい。三つ目は、お金。この三つの言葉を使う男子高校生は、将来、大器晩成ですよ。問題は、男子高校生で、放課後、お茶を飲みながらお母さんとぺちゃくちゃしゃべるのは危ない。自分の自我を持っていない。中学生、高校生のときに、ちょっと親と距離を置きたいんですよ。そういう成長スタイルがあったんだけど、今は、意外ともう、高校生、大学生の男たちが、放課後、母親と、お茶を飲みながらしゃべっているね。これは、非常に、今、困っているんです。自我というものができてきていない。

では、高校生の二つ目の問題。学校のサイトがあります、裏サイト。パソコンの裏サイトで、千葉県の県民生活課は、危ない高校の裏サイトを全部探しています。そこで問題です。学校裏サイトにはまっている高校生は、1年生、2年生、3年生、どの学年の男女か、誰が一番はまっているでしょうか。ちょっと相談してください。高校1年の男か女か、高校2年の男か女か、高校3年の男か女か。

これは、千葉県のデータによりますと、高校2

年生の女性が一番はまっているんですって。高校3年の女性になると、途端にやめちゃう。進学とか就職とかが近づくと、裏サイトには行かないという。高校2年生の女子高校生は、ちょっと注意していただけるとよいのです。いろんな悩みがあると思うんです。それを聞いてあげるという仕組みをつくっていかないと、ますますはまる傾向が強いということが言われます。

高校生の三つ目はよく言われますが日本の中・ 高校生の自尊感情が低いことです。自分を肯定する感情がみんな低いんです。ただし、いいですか。 日本人学校の中学生、高校生の自尊感情は高いというデータがあるんです。さあ、日本では駄目でも、ファミリーで海外に行くと、自尊感情は高まると言われるんです。その要因は何でしょうか。 ちょっとこれもお隣で相談してくれますか。日本人学校に行くと、自尊感情が高まってくる。

その研究者によりますと、二つ原因がある。一つは、ファミリー全体で絆が深まってくる。駐在として海外に行っていますよね。そうすると、月から金まで会社から帰りが早いんですって。一家団欒の宴が多いんですって。それで、土、日は、車を使ってどっかへ旅をするとか、家族単位の活動がものすごく増えてきたという。それで、家族の絆が深まってくるというのが、一点あるそうなんです。

2点目は、必ず海外に行くと、おまえの宗教は何かとか、日本の自慢は何かとか、日本の歌舞伎とか、落語とか何だとか、おまえの出身の千葉は、何が自慢か、必ずみんなから言われるんですって。それで、自分のふるさととか、国の文化を、ものすごく学習して、それで説明すると、自信が出てくるという。

自尊感情を高めることは、これからのPTAと 学校の一番のキーワードとなりますね。家族全体 のまとまりをどうするか。自分の出身地のよさを どう発見していくのか。それらに答えることが、 自尊感情を高かめることにつながる、というので す。

家庭教育の役割で、今日は二つ申し上げたい。

一つは、晩酌文化を復活させてほしい。今、市役所とか県庁の役人さんは、水曜日がノー残業デーね。ノー残業だけではダメです。おうちに帰らない。役所は出るけども、駅前の赤ちょうちんでとぐろを巻いているね。

晩酌文化というのは、おうちで、お父さん、お母さん、ファミリー全体が一家団欒の宴を週1回でいいからやっていただく、といいんですよ。そうすると、家族の絆が深まってくる。高 P 連でやってくださいよ。毎週水曜日、晩酌文化をやろうぜというアピールを。

晩酌文化をすると、なぜいいかと申しますと、おやじさんが飲んべえの場合は、なぜか、最初からご飯を食べない。お酒を飲んで、一番最後にお茶漬けを食べる。こういう日本のよき食文化を学習できるんですから。

私は、千葉大に37年間いました。ゼミ合宿をしますよね。夕飯に、明石は飲んべえだから、飲みたいけど、学生は飲ましてくれない。夕飯を6時頃食べて、9時からコンパをしましょう、となる。今の大学生は、おなかをつくってから、お酒を飲むんですよ。こういうのは、下の下なんです。日本酒は、すきっぱらで飲むのが、日本の文化。おなかをつくってから飲むのは、洋酒、スコッチとかウイスキーは30度を超えますから、すきっぱらで飲んだら、胃腸を壊すんです。おなかをつくってから、パーティーで飲むんですよ。

日本酒というのは、アルコール度が12%か13% ぐらいです。すきっぱらで飲んでも胃腸を壊さな いのが日本酒なんですから。日本酒を飲んで、最 後にお茶漬けを食べる。お茶漬けというのは、毎 晩食べても飽きがこないんですよ。こういう日本 のよき文化を、ぜひ家庭で伝えていってほしい。

二つ目は、なぜか飲んべえのおやじさんは、同じことを繰り返してしゃべる。聞かないと怒るね。「何で聞かないんだ」。晩酌に付き合おうと、親父の小言をうなずきながら聞き流す、ことを覚えます。これは大事ですよ。おやじの小言を聞きながら聞き流すことを覚えると、高校生が卒業して、大学へ行ったり、社会人になったときに、変

な上司と付き合っても、うまく付き合えるのです。 これは、家庭教育のたまものです。学校教育では、 そんなことはできませんから。家庭で晩酌文化と いうのを復活させてほしい。

三つ目は、「へその緒」の伝達式を行ってほしいのです。結婚するお嬢さんが嫁ぐとき、必ずお母さんが、たんすから出したへその緒を渡しますよね。よく東芝日曜劇場でそういうシーンがあるじゃないですか。お嬢さんが座って、「いろいろお世話になりました。晴れて明日嫁ぎます」と言ったときに、お母さんがちょっと待ってね、とおもむろに立ち上がって、たんすの桐箱に入ったへその緒を持ってきて、お嬢さんに渡します。これを、へその緒の伝達式と言うんですよ。何でお母さんは、お嬢さんにへその緒を伝達するんでしょうか。ちょっと相談してくれますか。

これ、もうおわかりですよね。親子の縁切り宣言なんです。中国とかスペインとかメキシコあたりではへその緒を捨てるらしいけども、日本は、まだまだ残していますよね。へその緒というのは、親子の契りのシンボルだったから、これを渡すことは、親子の縁を切る。もう帰ってくるなという宣言なんです。

かつての家庭教育は、そういう自信があった。 十数年間育てたから、どこの家に嫁いでも大丈夫 よ。家庭教育の全てを教えたから、もういいんだ よ。あんたは帰ってこなくていいと言っているん ですよ。もし、今日、おみえの女性の方で、へそ の緒をもらっていない方は、もう一度、実家に帰っ て、お母さん、しつけをお願いしますって、いって 下さい。そういうよき伝統は、まさに家庭教育の よさを出していく。

次に、日本の地域で頑張っているところがあるんです。一つは、福井のことを申し上げたいと思います。福井県は、ものすごく教育熱心です。文部科学省の学力テストが10年、続いています。常に上位に来ています。それで、40数年前の学力テストでも、ベスト5に入っているんです。なぜ、福井がいいんでしょうか。福井の子どもたちの、小学校6年生と中学校3年生の学力は高いんです

よ。その背景は、学校だけでなく家庭と地域が しっかりしているんです。

例えば、家族で3世代住んでいる日本一は、福井県だと言われます。女性の方が働く率も、日本一位だという。で、貯蓄高が、日本で3番目に多い。東京と岐阜県と福井県は、貯蓄が高い。地場産業があり、女性が働く仕事がある。で、お金が入ってくる。

また塩分の摂取量が一番少ないのは、福井県と 言われます。、診療所、病院の数が10万単位で一番 多いのは福井県と言われます。要するに、健康県 ですよ。

社会教育で言いますと、県立の中央図書館があります。中央図書館の入館者率は、10万人単位で日本一位ですよ。言いたいのは、市民も本を読んでいるんですよ。1人当たり本を借りる率は、日本で2番目に高いんです。だから、社会教育も熱心ですよ。地域の子どもたちの子ども会があります。子ども会の加入率は4割を切ったんです。残念ながら、千葉県も2割を切っています。東京はもっと低いんですよ。それが、福井県は、子ども会の加入率が高いんです。

言いたいのは、家庭の力と地域の力の支えがあるから、学校が栄えているんですということを申し上げたいんです。あそこは、浄土真宗の発祥の地ね。親鸞さんのお弟子さんの蓮如が「講(こう)」をつくったんです。無尽とか、頼母子講とか、お互いが助け合う文化がある。いま一度、福井の文化を見直していただきたい。学校だけでは栄えませんよということを申し上げたいんです。

二つ目は、今日は、信州の方、長野県の方はいらっしゃいますか。なぜか、長野の方は、県の歌を歌えるんですよ。「信濃の国」ね。皆さん、ほかの県の方は、県の歌を歌えますか。ちょっと相談してみてください。

「信濃の国」は、1番から6番まであるんだけども、1番と2番は、全員歌えるんです。小学校の音楽の時間もそうだし、地域子ども会で歌うんですよ。ご承知のように、長野は、長野と松本と

飯田は、仲が悪いんですよ。だけど、オール信州 では、非常に仲がいいんです。自分たちの郷土を 自慢する。東京の県人会では、全員が「信濃の国」 を歌えるんですから。

千葉大に来た学生に、「どこ出身?」「長野県」「歌ってごらん」。歌えるんですよ。伴奏なくてアカペラで歌います。信州の歌を歌っているんですよ。みんな拍手喝采ですよ。千葉県も、県の歌があるんですよ。多分、千葉県の方は、歌えない、明石を含めて。

これから、学校教員、警察官、県の職員の地方 公務員試験で1次試験に県の歌を入れてほしい ね。地方公務員が歌わないと、誰が歌うんですか。 そういう意味で、もう少し県を知るという、そう いう意味では、長野県は、すごいと思います。

三つ目は、群馬県。群馬の方はいらっしゃいますか。群馬の方は、地名を全部知っているんですよ。これは、上毛かるたのおかげです。戦後すぐですよ。昭和21年か22年に上毛かるたを作るんですから。群馬の地名と偉人の入ったかるたです。「あ」は、浅間山とか、「つ」は鶴の格好をした群馬県とか、みんなかるたを通しながら、群馬のことを勉強していくという。千葉県は、これをヒントにして房総かるたを作っているんですよね。

お願いしたいのは、高校生になりますと、大体 地域を離脱するんですけども、いま一度、住んで いる町を知って、好きになって、よくするという、 ワン・ツー・スリーが欲しいですね。

今、一番困っているのは、「東大ロボ」って知っていますかね。ロボット、人工知能で東京大学に入りましょうという研究が進んでいるんですよ。これは、東京情報研究所の新井先生のグループが作っていて、今、人工知能でセンター試験の偏差値が67.8%ほどになっています。この偏差値ならば、千葉大の教育学部に入れるんですから。もうそこまで人工知能は来ているんですよ。

それで、人工知能に負けなくて10年後、残っている職業はほぼ6割程度といわれています。4割の職業は消えるというんです。皆さん、10年後、残っている職業は何でしょうか。ちょっと相談し

てくれますか。

要するに、人工知能ができないものです。私は、 まず、高校の、中学校、小学校の教頭先生の仕事 は、人工知能では駄目ね。あれだけいろんな苦情 が来るんですよ、教頭の仕事はロボットでは解決 できない。教頭先生を尊敬していただきたい。

次は、市役所の事務方の証明書の発行は人工知能でカバーできるけども、市役所の苦情係は無理でしょう。蜂が出たから来いとか、街灯が消えたから直せとか、の苦情係は人工知能はできないね。

あまり変化しない老人介護は、比較的人工知能ができるかもしれない。だけども、幼児教育、保育所と幼稚園の教育は、ロボットはできないですよ。言いたいのは、幼児教育から、小学校、中学校の教育は、人工知能ではできない。ですから、PTAの皆さんのお力をお借りしたいんですよ。

これから多くのことは人工知能でできそうだけれども、できない非認知能力を大切にしてほしい。 認知的なことは、ロボットがカバーできるんですよ。非認知能力は、学校社会ではできにくく、家庭と地域でできることが多い。

私は、長嶋と野村を対象にした研究を進めてきました。

野村さんは、認知能力はすごい。論理的で、記録を残し、明日を考えて、全体計画を作るのがうまい。長嶋さんは、明日を考えない。今に生きる。すぐにエースをつぎ込むね。記録よりも記憶を、非常にこだわる。論理よりも感性で勝負に行く。

野村さんは、学校教育のチャンピオンです。家 庭とか、地域教育のチャンピオンは、長嶋さんだ ろうと思っているんですよ。

学校の先生方は、野村さん的なタイプをつくってほしい。優秀な官僚さんと東大生のような認知能力に秀でた人を育ててほしい。だけども、決断ができる政治家とか、PTA会長のリーダーというのは、認知能力だけでは駄目です。やっぱり非認知能力が必要なんですよ。

判断力と決断力を高校生にどう説明するか。 ちょっと相談してください。決断力と判断力があ るんだけども、どう違うんですかと言われました。 どう答えますか。私は、こう言います。判断力は、いろんな課題解決のために、情報を集めるんだよ。 集めて、A案、B案、C案を作るのが判断力よ。 これは、大体教頭さんの役割ね。で、校長さんは、 そのA、B、Cの間に、Bを取るか、Aを取るか は、校長さんの決断ですよ。だから、教頭と校長 の役割は違う。

もっと平たくいえば、恋愛は判断力だよ。いろんな条件を集めます。長男、次男とか、背が高い、 低いとかね、好き嫌いとか。情報集めるだけで何 ら決断できない。

結婚は、決断だよ。清水の舞台に立って、片目をつぶって、えいやと飛び降りるのが決断よ。今の若者は、決断できないんですから。

これからのPTAの活動は、判断力より決断力を持った高校生を家庭と地域、それから学校が協力して育てていってほしい。

そろそろ時間が来ましたから、まとめますと、私は、二つの風、一つの色をお願いしたい。まず、一つの風は、家の風、家風と言います。各家庭の家風を起こしてほしい。家の紋は、家紋はこうだよとか、家の訓は、家訓は、こんな家訓があるよ。家自慢。二つ目は、学校の風。校風を、各高校の校風を盛り上げてほしい。建学の精神がある。うちの校歌と校旗には、こんな意味があるんですよということを、自慢してほしい。三つ目は、地域色。高校のある地域のカラーを出してほしい。これを、二つの風、一つの色。

言うならば、高校生を育てる場合に、トライアングルで家庭と高等学校と地域の三位一体で高校生を育成していただくと、元気な高校生が生まれると思います。どうもご清聴ありがとうございました。



記念公演

「私の選んだ女優の道」

女優 市原 悦子 氏



大会2日目、千葉県出身の女優、市原悦子さんの記念公演が、幕張メッセ・イベントホールで開催されました。

スポットライトに照らされ、会場後方より登場 した市原さんは、参加者に向かってにこやかに手 を振りながら、ゆっくりとした歩みでステージへ。 正に女優として心憎い演出でした。

今回、「講演」ではなく「公演」としたことにも、 市原悦子という役者としての意気込みを感じまし た。

少し息を切らしてステージに上がり、最初に発 した言葉は「うふふ!」。この一言で、会場全体が 一瞬にして笑顔に包まれました。その間の取り方 がとても絶妙で「さすが!」と。

その後も、穏やかな口調で幼少期や女学生時代の様々な体験談、女優という職業に就いて得られたことなど、いろいろなエピソードを交えながらの語りは、観ている私たちを魅了していきました。

そして朗読を2話。1話目はグリム童話の「ねずの木の話」。「おかあさんがぼくをころして、おとうさんがぼくをたべた。いもうとがぼくのほねをひろって、ねずのきのしたにおいた…、キヴィッ

ト、キヴィット」、とても残酷なお話。先ほどまで 和やかだった会場が、ピンと張りつめました。多 くの参加者が、市原さんのお話の中に引き込まれ ていくのが空気を通して感じ取れました。

次いで、「日本昔ばなし」の裏話など楽しいお話の後、2話目の朗読。2話目は「火垂るの墓」の著者、野坂昭如さんの「凧になったお母さん」。戦争中、戦火に巻き込まれ、我が子を助けるために自らを盾にして懸命に守り、最後は空に舞ったお母さんの切なく哀しいお話でした。

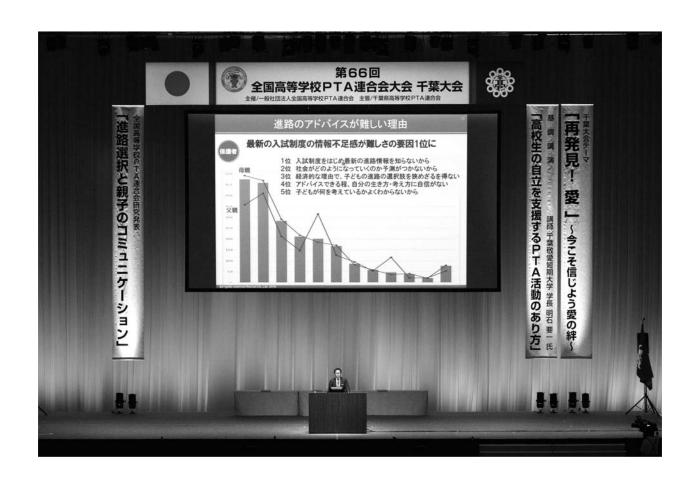
そして最後に、ご自身の戦時中の体験から「世界中から飢えや戦争がなくなることを祈っています」とのメッセージで公演を終えられました。

市原さんは、なぜこの公演で残酷なグリム童話や戦争童話を朗読したのだろうかと思いました。毎日のように起こる、子供たちを巻き込んだ悲しい事件や事故。二つの朗読は、そんな現代社会に対しての市原さんからの警鐘であり、「私たち大人が、今後どう行動し、何をしなければならないのか」、そんな宿題を出されたような気がした公演でした。

(文:澤畑智佳子)

第 66 回 全国高等学校PTA連合会大会 千葉大会

分科会· 特別分科会



「再発見!愛」 🕢

~今こそ信じよう愛の絆~

分科会一覧

	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会
	学校教育とPTA	進路指導とPTA	生徒指導とPTA	家庭教育とPTA
テーマ	グローバル化に対応した 資質・能力を育む	希望進路を実現する進路指導	思いやりのある「豊かな心」 を育む生徒指導	多様化する情報社会における 青少年の健全育成
会場	国際展示場9ホール	国際展示場2ホール	国際展示場 3 ホール	国際会議場 コンベンションホール
発表形式	事例発表と研究協議	事例発表と研究協議	事例発表と研究協議	事例発表と研究協議
	大久保尚紀	長澤 成次	岩永雅也	譚 奕飛
助言者	日本大学理工学部 准教授/高大連携委員	千葉大学教育学部 教 授	放送大学教養学部 教授/博士	中央学院大学商学部 准教授
奶白日	小澤美代子	島影 義和	滝本 信行	山西 哲也
	さくら教育研究所 所 長	流通経済大学経済学部 教授/就職支援センター長	千葉大学教育学部 特命教授	淑徳大学総合福祉学部 准教授
	坂本 覚	山岸 智子	岩本 光正	篠塚 典幸
	北海道恵庭北高等学校 PTA会長	宮城県仙台向山高等学校 PTA会長	福島県立葵高等学校 PTA会長	茨城県立波崎高等学校 前PTA会長
	砂金 達	宇佐美雄三	興津 邦彦	阪倉 悦子
発表者	東京都立富士高等学校・東京 都立富士高等学校附属中学校 父母と先生の会 前会長	栃木県立栃木高等学校 PTA顧問(前会長)	静岡県立焼津水産高等学校 PTA会長	三重県立石薬師高等学校 前PTA会長
元汉日	村上 久明	山口 由美	松永 哲也	谷野 啓吾
	京都市立西京高等学校 前PTA会長	福井県立福井農林高等学校 PTA副会長	滋賀県立長浜農業高等学校 PTA会長	金沢市立工業高等学校 PTA会長
	岡本健博	濵渦 教邦	三島 光敏	山本 美穂
	岡山県立井原高等学校 PTA会長	高知県立高知工業高等学校 PTA会長	佐賀県立太良高等学校 PTA会長	福岡県立西田川高等学校 PTA会長
 全国高等学校	大石 幸和	泉 満	川部 幸博	山野 公寛
PTA連合会	全国高 P 連理事	全国高P連健全育成委員長	全国高 P 連理事	全国高 P 連理事
担当役員	福井 玲子	川北 恭弘	伊東 猛彦	大溝 雅昭
	全国高 P 連研修委員	全国高 P 連研修委員	全国高 P 連研修委員	全国高 P 連研修委員
班長	川島 正博 千葉県立成東高等学校	細淵 一之 千葉県立市原高等学校	鈴木 光則 千葉県立佐原白楊高等学校	大森まり子 千葉県立鎌ヶ谷西高等学校
	PTA副会長	T某宗立门原高寺子校 PTA会長	T某宗立佐原曰杨尚寺子校 PTA会長	一
	上代真澄	笹子 泰明	小西 則子	畑順子
副班長	千葉県立成東高等学校 校 長	千葉県立市原高等学校 校 長	千葉県立佐原白楊高等学校 校 長	千葉県立鎌ケ谷西高等学校 校 長
H17/12/				古川知己
				千葉県立鎌ケ谷高等学校 校 長
	岩崎 洋和	田邉 学	秋葉 章二	松本 隆文
主任	千葉県立成東高等学校 教 諭	千葉県立市原高等学校 教 諭	千葉県立佐原白楊高等学校 教 諭	千葉県立鎌ケ谷西高等学校 教 諭
		森川 浩一		後藤 光康
		千葉県立木更津高等学校 教 諭		千葉県立鎌ケ谷西高等学校 教 諭
	髙嶺加代子	細野みか子	土子 美乃	村上まゆみ
司会	千葉県立成東高等学校 PTA副会長	千葉県立木更津高等学校 PTA	千葉県立佐原白楊高等学校 PTA	千葉県立鎌ケ谷西高等学校 PTA
P. 4		櫛引 由紀	藤原 直美	
		千葉県立木更津高等学校 PTA	千葉県立佐原白楊高等学校 PTA	

分科会・特別分科会は、音声と発表データを収録した DVDを78ページに貼付しましたので、ご覧下さい。

	全高P連研究発表	特別第 1 分科会	特別第2分科会
テーマ	進路選択と親子の	学校の危機管理とPTA	情報機器と学校教育
	コミュニケーション	生徒指導上の諸課題解決のために	高校生のスマートフォン利用の 状況と必要な対応について
会場	幕張イベントホール	アパホテル&リゾート東京ベイ幕張 ホール	ホテルニューオータニ幕張 鶴の間
発表形式	第1部:基調講演 第2部:対談とディスカッション	基調講演とパネルディスカッション	基調講演とパネルディスカッション
基調講演講師	小林 浩	上北彰	藤川 大祐
	リクルート進学総研所長	千葉科学大学教職課程教授	千葉大学教育学部教授/副学部長
 コーディネーター		戸塚 唯氏	市野 敬介
		千葉科学大学教職課程准教授	NPO法人企業教育研究会事務局長
パネリスト	小林 浩	村松 弥生	細淵 真一
	リクルート進学総研所長	千葉県立柏の葉高等学校前PTA会長	千葉県立市原八幡高等学校前保護者会会長
	宮本 久也	小笠原瑞枝	村上みどり
	全国高等学校長協会会長	千葉県立柏中央高等学校PTA会長	千葉県立千葉南高等学校前PTA会長
	佐野・元彦	野本めぐみ	滝田 哲之
	全国高等学校PTA連合会会長	千葉県立流山おおたかの森高等学校PTA監査	千葉県立千葉高等学校第2学年
	鈴木 裕枝	新井さつき	岩瀬 郁美
	千葉県立柏高等学校前PTA会長	千葉県立小金高等学校前PTA会長	千葉県立千葉南高等学校第2学年
		武田 泰彦	永野 直
		千葉県立柏高等学校教諭	千葉県立袖ヶ浦高等学校教諭
		清水 浩一	與島 宏
		千葉県立市川工業高等学校教諭	千葉県立東金高等学校教諭
	野田誠	川原 慎一	森野 真
	全国高P連進路対策委員長	全国高P連調査広報委員長	全国高P連理事
全国高等学校	池本 義信	村太健二	山口
PTA連合会 担当役員	全国高P連研修委員長	全国高P連研修委員	全国高P連研修委員
担当汉英	小山 全司		
	全国高P連研修副委員長		
TIJT =	鈴木 裕枝	榎本 彰	溝渕 順子
班長	千葉県立柏高等学校前PTA会長	千葉県立流山おおたかの森高等学校PTA会長	千葉県立千葉高等学校PTA会長
	小野 祐司	吉田富昇	鈴木 政男
副班長	千葉県立柏高等学校校長	千葉県立流山おおたかの森高等学校校長	千葉県立千葉高等学校校長
	代﨑 晶子	山田純稔	川島・康行
<u> </u>	千葉県立柏高等学校教頭	千葉県立流山おおたかの森高等学校教諭	千葉県立千葉高等学校教諭
主任			小高正之
司会			 岡田多美江
	全国高P連副会長	千葉県立流山おおたかの森高等学校PTA	千葉県立千葉高等学校PTA
	千葉県立柏高等学校PTA		
	1		

分科会報告

全国高P連研究発表

~進路選択と親子のコミュニケーション~

研究発表は一部、二部構成で、一部では「第7回高校生と保護者の進路に関する意識調査」の結果から見えてくるさまざまな問題や課題が挙げられ、過干渉過ぎず、適度な距離を保ちながら子供の自立を促すことが大切ということと、保護者の関わり方が子供の進路選択に大きな影響を与えているという事が分かりました。

第二部のパネルディスカッションでは保護者、 学校の立場から親子のコミュニケーションと子供 たちの自立について活発な議論がなされ、自立と は自分で考え、自分で決断し、その結果に責任が 持てることが自立であり、何事も身をもって体験 することによって、子供自身の生きていく力につ ながるというお話がとても印象に残りました。

(野田 誠 理事)

第1分科会

学校教育と PTA

〜再発見!愛 グローバル化に対応した 資質・能力を育む〜

第1分科会はこちらの第9ホールで「学校教育 とPTA」をテーマに盛大に開催されました。

北海道・東京・京都・岡山からの発表は、それぞれの地域の特色と課題を踏まえその課題解決に向けた日々、考え動くPTA活動をテーマとした内容でした。

いくつかのポイントと、アドバイスを頂戴した お二方のご助言をまとめて報告いたします。

まずは発表内容のポイントからご紹介します。

- 学校や地域での豊かなコミュニケーションが必須
- 親がグローバル化に対応しないと子どももグローバル化に対応できない
- 大学はゴールではない
- 役員が楽しんで活動していないと会員も楽しん で活動できない
- 自分たちが体験し学習しその姿を子どもたちに 見せてあげること

子どもたちへは教えるのではなく、気付きをあたえるコーチングが大事

サブテーマであったグローバル化への対応に対して各校の取り組みが伺えました。しかしながらその根底にあるのは、その求心力の一役を担うのがわれわれPTAであり、課題解決へと楽しく笑顔でPTA活動することが大切なことだと受け止めました。

全国のなかでもそれぞれの地域の課題があり、 その解決方法についてもいろいろなやり方がある と思います。

さまざまな方法がある中、自分たちの課題にそれをどう取り入れることができるかを、生涯学習でもあるPTA活動を通じて考えていくことが大切であると学びました。

最後に、最も拍手喝采を浴びた発表内容での一 言をご紹介して終わります。

「誰もがいろんな理由で入ったPTA。一度 入ったらなかなか抜けられない。それがPTA」 皆さんでポジティブに受けとめてこれからの活 動を楽しんでいきましょう。

(大石幸和 理事)

第2分科会

進路指導とPTA

~再発見!愛 希望進路を実現する進路指導~

本分科会は「進路指導とPTA」再発見!愛、希望進路を実現する進路指導というテーマです。 4校より発表された研究協議では多くの工夫と提案に満ちた素晴らしい内容でした。宮城県仙台向山高等学校の進路学習「向陵プラン」の取組み、栃木県立栃木高等学校の90%を超える驚異的なPTA総会出席率からの進路指導への効果、福井県立福井農林高等学校の産業界と連携された模擬面接の取組みとグリーンメールによる学校と家庭のつながり、高知県立高知工業高等学校の探求型人材育成(イノベーションKT)の取組み。どれも子どもたちの夢の実現に向けての学校・地域・家庭・産業界のそれぞれの役割、そしてそのつながり・連携を深めるアイデアに満ちあふれた未来志向の発信です。このすばらしい取組みのヒントか ら自ら学び考え主体的に行動できる人材育成の様々な場面・機会に私たちがどのようにかかわっていくことができるのか?向かいあい、そして学び続けるPTAでありたいという強い思いを強いメッセージを、本年千葉大会第二分科会から強く大きく発信することを報告いたします。

(泉 満 理事)

第3分科会

生活指導とPTA

~再発見!愛 思いやりのある

「豊かな心」を育む生徒指導~

思いやりある「豊かな心」を育む生徒指導を テーマに、特色ある4校の研究発表及び、情報交 換を行いました。

福島県立葵高等学校からは、「生徒・保護者・学校三者の意思疎通が重要であり、PTA活動を全て保護者に伝える努力をしている。」との発表がありました。

静岡県立焼津水産高等学校からは、「朝食を食べさせる指導の実施による、生徒への好影響として、欠席・遅刻・早退・生徒指導件数の減少、そして虫歯までの減少が顕著に表れたデータに基づく報告」があり、「今後は体力・気力の向上による学力向上を目指す。」との発表がありました。

滋賀県立長浜農業高等学校からは、「総会後に3学年の生徒を講師として招き、保護者がパン作りや、草花の寄せ植え体験を取り入れていること、また11月19日に農産物販売会を行うので、是非来校いただきたい。」とのPRもありました。

佐賀県立多良高等学校からは、「様々な不安を 抱える生徒たちとPTAが正面から向き合い、常 に未来ある生徒たちのためを考え、夢を育む活動」 の発表がありました。

助言者のお二人から「素晴らしいの一言である!」、生徒指導は、まさに「愛の絆」それぞれのコミュニケーションが重要な要素であるとの助言をいただき、千葉大会実行委員会の「愛に満たされた」第3分科会でした。

(川部幸博 理事)

第4分科会

家庭教育とPTA

~再発見!愛 多様化する情報社会における 青少年の健全育成~

第4分科会のメーンテーマは「家庭教育とPTA」です。スマホの爆発的な普及など情報社会とどう向き合うか、人と人の生の付き合いから生まれるコミュニケーションとは何か、について、4校のPTAが健全育成の視点で話し合いました。

印象深かったのが、茨城県立波崎高校PTAの報告です。スマホ利用の実態調査を、生徒、保護者、教員を対象に実施。スマホの知識について、生徒と保護者の間に格差が広がっていることを突き止めました。そこで、保護者が学び、保護者が保護者に教える「スマホ指導員」の必要性を説きます。

この取り組みについて、助言者である中央学院 大学の譚奕飛准教授は高く評価。何の対策もしな いで子どもにスマホを渡すのは「深夜の歓楽街に 子どもを放置するようなもの」とたとえます。保 護者ができる具体的な対策として、利用のルール 作り、フィルタリング、使用状況の確認などを挙 げました。

主テーマである家庭教育や健全育成について も、示唆に富む発表がありました。

三重県立石薬師高校PTAは、家庭の教育力を 高めるためにはまず、親の視野を広げることが必 要と考えたそうです。保護者が先生、生徒と共に 学ぶ機会として、研修会や講座を開きました。

金沢市立工業高校はPTA役員による就職模擬 面接など活発な活動を通して親と子の絆を強くし ています。生徒と教員、保護者を一つの「チーム」 と強調したことが印象的でした。

福岡県立西田川高校PTAはこう力を込めました。「先生と保護者の信頼関係があってこそ、生徒たちは安心して社会の入り口に立つことができる」。PTA活動の心構えとして、記憶に残る言葉になりました。

淑徳大学の山西哲也准教授は、PTA活動を授業に組み込むアイデアを紹介。行事への参加率をアップするために、PTA活動を通して保護者が

どれだけハッピーな気持ちになったのか、子ども たちがどれだけ成長したのかをアピールする大切 さを強調しました。

スマホとの付き合い方など、私も悩める親の一人です。大変参考になる話し合いでした。地元に戻り「再発見、愛」を実践したいと思います。ありがとうございました。

(山野公寛 理事)

特別第1分科会

学校の危機管理と PTA

~生徒指導上の諸課題解決のために~

基調講演で千葉科学大学教授上北先生から、「大人達が子供からリスクを排除する事で結果、子供達はリスクと向い合う機会を失いリスク対応が未熟なまま成長している。自立を望む親と先生の思いとは裏腹な方向に子供達を導いている」とお話を頂きました。その中でリスクに向き合わせその経験により自助、共助を養う「大航海方式の教育」を提言されました。

パネルディスカッションでは、単Pで役員をされ教育にご熱心な4名の保護者と、生徒の為に日々頑張っておられる2名の先生に入って頂きました。4名の保護者は共に、大航海方式の教育に賛成であり、リスクに向き合わせ自立を促すことをご発言くださいました。先生は、生徒達にリスクを経験させ教育して行く事は現場としては難しいというお話でした。これを受け上北先生より、リスクと向き合わせる事にはバランスが大切で命に関わる事にはしっかり指導するべきであるとおっしゃって頂きました。

子供をどうリスクと向き合わせるか、それが子 供の自立に繋がり自助、共助を身に付ける事が、 これからの教育のファクターになるという結びで 分科会を閉じました。

(川原慎一 理事)

特別第2分科会

率は97%、平均使用時間は192分。

情報機器と学校教育

~高校生のスマートフォン利用の状況と 必要な対応について~

テーマは「スマートフォン」。ポイントは3つ。 一つめは、「平成25年問題」。藤川先生の講演に よると、高校生のスマホの所有率が80%を超えた 25年を節目に、ネットいじめ等が増加。今や所有

次に二つめは、「ツイッターを使ったディスカッション」。コーディネーターの市野さんの発案で、ツイッターで会場の方の意見をリアルタイムでスクリーンに写される斬新なスタイルで、150もの意見が書き込まれました。(#スマホ千葉)

そして三つめは「元気な高校生パネリスト」です。地元千葉県の保護者2名、先生2名の実践に基づく意見に加えて、二人の高校生、滝田さんと岩瀬さんのお話が大好評でした。検索や部活、学校の連絡、友達とのコミュニケーションなど、毎日スマホを使いこなす二人。高校生にはスマホは必需品で、使うなと言っても無理。使い方は個人の裁量なので、家庭で腹を割って話し合うことが大切と。また、PTAの研修会に参加しないような方にどう伝えるか?という問題については、高校生のほうがスマホには詳しいので、高校生にしっかり教育し、子供から親に伝えるのが良いのではという目から鱗の発言もありました。

社会のIT 化が日々進む中で、デメリットは小さく、メリットは最大限に活用していけるよう、大人もスマホを理解し子供と話し合っていくことが大切だということを、高校生と共に学ぶことができた分科会でした。

出演者、発表者、そして千葉県の皆様、本当に ありがとうございました。

(森野 真 理事)

第 66 回 全国高等学校PTA連合会大会 千葉大会

閉会式



「再発見!愛」

~今こそ信じよう愛の絆~

閉会式

1 開式の辞

司会 引き続き、第66回全国高等学校 P T A 連合会大会千葉大会、閉会式に移らせていただきます。はじめに、千葉大会実行委員会副委員長の湯井隆子より、開式の言葉を申し上げます。

湯井隆子 これより、第66回全国高等学校PTA 連合会大会千葉大会閉会式を行いたいと思いま す。

2 大会会長挨拶

司会 続きまして、一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長 佐野元彦より、閉会のごあいさつを申し上げます。

佐野元彦 昨日から2日間にわたり、皆様方には本大会のプログラムに熱心にご参画をいただき、誠にありがとうございます。心から感謝を申し上げます。PTA活動の原点は、言うまでもなく、子どもたちと寄り添い、地域と共にある学校PTA、皆様方の活動にあります。

一方、私たち全国連合会や都道府県市連合会の 役割は何かと言いますと、一つは、このような研 修の場を通じて、各学校で行われている先進的な PTA活動あるいは成功例などの様々な情報を提 供することにあります。皆様方には、この2日間、 多くの気付きや学びを得ていただけたものと自負 しております。

また、もう一つの役割は、各学校のPTAに共通する課題、更には、社会発展の礎となる日本の教育全体、これを望ましい姿にするためにはどうすればいいかということを、各連合会は都道府県市のレベルで、そして、全国連合会は全国のレベルで、教育関係機関等々との連携の中で、それを提言し、実現をしようとしています。その点においても、日本の社会の在り方、あるいは日本の教育の在り方の一端に触れていただけた2日間であったら、大変ありがたいなと思うところです。

本大会を貫くキーワードは、「自立」という言葉でした。私自身、この2日間を通じて感じたことを二つ申し上げたいと思います。

1点目は、地域と学校とのつながり。これが大切になってきたと強く感じました。全国のPTAの中には、PTに加えて、コミュニティーの「C」をあえて加えて、PTCAと称する学校が出てまいりました。昨日の全国の研究発表の場でも盛んに強調されておりましたが、自立を促すためには、様々な経験や体験を子どもたちがする必要があり、それは、学校の中だけにとどまらずに、フィールドを地域に広げていくことが大事であるという提言がございました。まさしくその通りだと思います。

そして、子どもたちも、様々な活動を通じて、 小さな達成感やお役立ち感を感じ、それが自己有 用感、自己肯定感、自尊心の向上につながってい くことが期待できるのではないかと強く感じたと ころであります。

一方、昨日の開会式の松野文部科学大臣のお話にもありましたとおり、学校が地域活性化の核になるということも期待をされております。私は、秋田県で生活をしています。日本で一番人口減少率の激しい地域であります。地方では、地域消滅の危機ということが言われております。それに対して、学校は、学校で学んでいる生徒たちは、卒業した生徒たちは、どのような貢献ができるのか。また、都市部においても、確かに人口は多いかもしれないけれども、果たしてコミュニティーの「com」に込められた協働をしていくという地域なんだろうか。人は多いけれども、一人一人孤立なんだろうか。人は多いけれども、一人一人孤立をした、コミュニティーとは呼べない、人だけがいる地域なのではないか。そこに、学校がどういうつながりを持てるだろうか。

昨日、なるほどというお話を、全国校長協会の会長で、都立西高の校長先生である宮本先生から伺いました。防災の観点から、もし昼間、大きな災害が起きたとき、その地域には、都市部であればあるほど、勤務先が違う場所なので、人がいない。そこに、800人、1,000人の若者がいるという

のは、いかに地域にとって心強いか。都市部の学校でも地域に貢献できるのだというお話がありました。地域が学校を支え、学校が地域の役に立つ、地域協働ということを強く感じたところでございます。

2点目は、キャリア教育の重要性というものを、 改めてかみしめた2日間でありました。職業選択 という狭い意味でのキャリアではなく、いかに生 きるか、自らの生き方を見つめるという、そうい うキャリア観の醸成が、子どもたちが自立してい くためには、大変重要であるとつくづく感じさせ られました。

大変恐縮ですが、私の母校であり、現在の所属 PTA校である秋田県立秋田高等学校のお話をさせてください。秋田高校は、明治6年設立、今年で143年を迎える学校です。校歌は、大正11年、今から90数年前に作られました。作詞は、土井晩翠。「荒城の月」の作詞で有名でありますが、当時、第二高等学校、今の東北大学の前身の旧制二校の教授をしていた土井晩翠は、母校の東北大学の校歌のみならず、東北地方の多くの高校の校歌を作詞しています。

土井晩翠は、秋田高校の校歌の中で、「わが生わが世の天職いかに」という問いを発し、そして、「敬天愛人理想を高く おのれを修めて世のためつくす」という答えを記しています。秋田高校の生徒は校歌斉唱のたびに、この一節に触れるのです。

また、昭和38年から4年間、秋田高校の校長を務めた、鈴木健次郎先生という名校長がいらっしゃいます。鈴木健次郎先生は、旧制秋田中学をご卒業後、戦前の青年団活動に身を投じ、そして戦後は文部省に入って、公民館制度の創設、そして、社会教育と、社会教育実践に力を注いでこられましたが、請われて、昭和38年に母校の秋田高校の校長に就任しました。その鈴木健次郎先生が、常日頃、様々な場面で生徒たちに語り掛けていたのは、「なんじ、何のためにそこにありや」。いつ、どんなとき、誰に、どこで聞かれても、即座に答えられるような自覚ある生活を送ってほし

いと、折に触れて、生徒たちに語り掛けました。

鈴木先生は4年間の校長生活でありましたが、 それは代々語り継がれて、「なんじ、何のためにそこにありや」、それを考える高校生活を送ることが、秋田高校では行われており、それに対する答えが、先ほどの校歌の中にある「敬天愛人理想を高く おのれを修めて世のためつくす」であろうと思います。

私たちも、子どもたちと一緒に、何のために生きるのか、どのような役割を果たして、周りの方たち、そして、世の中の役に立とうとするのか。そのようなことを、お互いに自覚をして生活する親子関係、家庭でありたいと考えるところです。

インドの独立運動の指導者であったマハトマ・ガンジーの言葉に、こんな言葉があります。「善きことは、カタツムリのスピードで進む」。私たちのPTA活動は、一朝一夕に飛躍することはできないかもしれません。しかしながら、カタツムリのスピードでも、一歩一歩前に進んでまいりましょう。

終わりに、ここにお集まりの全ての皆さま方に、今後、なお一層のPTA活動へのご尽力をお願い申し上げますとともに、素晴らしい大会を主管いただいた、千葉県連の皆様、千葉大会実行委員会の皆様方に、深甚なる感謝を申し上げ、閉会に当たっての挨拶といたします。ありがとうございました。

3 大会宣言採択

司会 続きまして、本大会の実行委員会副委員長 の金子浩章が、本大会の宣言文を読み上げます。

金子浩章 皆さま、大会要項194ページをご覧く ださい。

大会宣言【後述·P75掲載】

司会 ただ今の大会宣言文へのご承認の拍手をお 願い申し上げます。盛大な拍手、ありがとうござ いました。大会宣言は、採択されました。それで は、皆さま、(案)の文字をお消しください。

4 全国高户連旗返還

司会 さて、いよいよ連合会旗の返還ならびに、次期開催県への授与となります。佐野会長ならびに大木幸夫千葉大会実行委員会委員長、そして、次期開催県であります、静岡大会実行委員長 杉浦政紀様、ステージ中央にお進みくださいませ。はじめに、全国高等学校PTA連合会旗が、千葉大会実行委員会委員長 大木幸夫から、一般社団法人全国高等学校PTA連合会 佐野会長に返還されます。

〈全国高等学校PTA連合会旗返還〉

司会 連合会旗が、大木委員長より佐野会長へ返還されました。

5 全国高P連旗授与

司会 それでは、続きまして、佐野会長より、次期開催県であります、静岡大会実行委員長 杉浦政紀様に会旗が授与されます。

〈全国高等学校PTA連合会旗授与〉

司会 静岡大会のご盛会、ご成功を、心より申し 上げます。どうぞお席へお戻りください。

6 次期開催地挨拶

司会 それでは、ここで、次期開催県であります 静岡県のPR映像をご覧いただきます。どうぞス クリーンにご注目ください。

〈映像放送〉

杉浦政紀 皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介を

いただきました、次年度開催県静岡県で実行委員 会実行委員長を務めさせていただきます杉浦でご ざいます。よろしくお願いいたします。

私、まず、静岡をPRする前に、どうしてもしたいことがございます。皆さまのご協力の下でさせていただきたいと思いますので、ぜひ、お願いいたします。それは、千葉県連の皆さん、実行委員会の皆さんへの感謝でございます。会場の中にも、ピンクのポロシャツの皆さまがいらっしゃいます。また、会場の中に入らず、ロビーにいらっしゃる方、ステージ脇にもいらっしゃいます。そして、サブ会場の皆さんのもとにもいらっしゃるかと思います。そういた方々に、心を込めて、感謝の拍手を送りたいと思いますので、ぜひご協力をよろしくお願いいたします。サブ会場の皆さまも、ご一緒にお願いたします。すてきな大会をありがとうございました。

ありがとうございます。さて、ここからは、静岡でございます。来年、2017年、平成29年、8月の24日木曜日、25日金曜日、2日間にわたり、第67回全国高等学校PTA連合会大会静岡大会を静岡の地で開催させていただきます。メイン会場としましては、静岡と浜松の中間にございます、袋井市という市がございますが、そちらにございます小笠山総合運動公園エコパの中にございます、エコパアリーナを会場と致しまして開催をさせていただきます。

こちらは、2002年、ワールドカップサッカーのときのサッカースタジアムでございます。そこの併設アリーナを使わせていただきます。そして、分科会は、その地だけでなく、静岡市から浜松市まで、7会場、広いエリアを使っての開催になりますけれども、移動等、皆さまのご協力の下、素晴らしい大会を築き上げていきたいと、実行委員会一同考えております。よろしくお願いをいたします。

そして、テーマでございますが、先ほどビデオにも出てまいりました、「『有徳(ゆうとく)の人』づくり」この言葉を使わせていただきます。そし

て、「~未来のために行動する『一人』を育てよう ~」、そういったサブタイトルも付けさせていた だきました。皆さまには、「有徳の人」という言 葉、あまり聞き慣れない言葉かとは思いますが、 この言葉は、静岡県の教育基本方針にうたわれて いる言葉でございまして、意味としては、個人と して自立した人、人との関わりあいを大切にする 人、よりよい社会づくりに参画し行動する人、そ ういった人を育てようという意味でございます。

われわれ、この言葉に共感を感じ、この言葉を テーマに、大いに全国の皆さまと、そういった頼 もしい子どもたちを育てる、そういったことを研 修する場を、静岡の地でご用意させていただきた いと思っております。

来年のまた暑い夏だと思います。そんな中でございますけれども、より多くの方に、静岡にお集まりいただき、皆さんで研修をし、そして、研修をし、また研修をし、そして、交流をしていただき、最後に静岡を満喫していただく大会につくり上げていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

静岡のメンバー、オール静岡で皆さまをお迎えをしたいと思います。全国の皆さまのご来場を心よりお待ちしております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

司会 次期開催県であります静岡県の皆さまでした。ありがとうございました。来年がとても楽しみになりました。

7 実行委員長閉会の挨拶

司会 続きまして、千葉大会実行委員会委員長、大木幸夫より、閉会のあいさつを申し上げます。

大木幸夫 2日間にわたりまして、皆さん、研修、お疲れさまでございました。そして、最後の閉会式までお残りいただきまして、誠にありがとうございます。いささか緊張しております。本来であれば、もうこの時間に舞浜地区に向かいたい方も

多々いらっしゃると思いますが、感謝の気持ちを 述べさせていただきたいと思います。

準備を始めて2年半たちまして、愛情を込めてこの大会を一生懸命つくってまいりました。準備してまいりました。大会のテーマでもあります「愛」という言葉をキーワードに、スタッフ一同、一生懸命つくってまいりました。そして、多くの絆もできました。愛と絆の結集の後、何が残るかということが、今、この場に立ってよくわかりました。それは、感謝という気持ちが残っております。感謝という気持ちが残ると、すごく幸せな気分です。恐らく、ピンクのポロシャツを着ている千葉県のスタッフのみんなも、同じ気持ちだと思います。

そして、私は、代表者ということで多くの方に 直接声を掛けていただき、励ましていただき、こ の大会を、責任者として、その責任を果たすこと ができました。そして、多くのねぎらいの言葉も、 直接掛けていただきました。

しかしながら、スタッフには、なかなかそういう声を、直接気持ちを届けていただける場がなかったので、杉浦会長の一言で、皆さんから、温かい拍手を頂けたことは、本当に本当にうれしい限りです。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

皆さんにとっては、2日間、どんな大会だったでしょうか。たくさんの思い出、それから、学び、気付き、お持ち帰りいただくことができる大会になったでしょうか。

ありがとうございます。千葉の地で、こうして全国大会が開けたことで、千葉県も開催経験県としてお仲間入りできたこと、本当にうれしく思います。第66回を迎えた本大会ですが、第1回大会から65回大会まで、まさしく絆の下、つないでいただいた開催県の皆さま、本当に感謝申し上げます。

そして、これは私からのお願いなんですが、来 年度、静岡大会に、千葉よりも、もっといい大会 になるんじゃないか、もっといい大会にしてくれ というお気持ちの方、サブ会場でこのモニターを 見ていられる方、ご協力ください。静岡大会が、 もっともっといい大会になればいいなと期待をし ていらっしゃる方々、大きな拍手を静岡県にお願 いします。

私も、本当に期待をしております。杉浦実行委員長のポロシャツを見ると、真新しいこの筋が、折り目が入っているんですね。私のポロシャツも、1年前は、本当に真新しい、もっときれいなピンクでした。ところが、今は、終わりを迎えているので、チーバくんと同じにおいがします。いよいよ終わってしまうんだなと、ちょっと寂しい気持ちもあります。

しかしながら、ここにお残りの皆さんの笑顔、 これには、本当に、寂しさと感謝の気持ちでいっ ぱいです。本当にありがとうございました。

最後になりますが、皆さんのご健康と、これからの子どもたちの明るい未来を期待しまして、私の感謝の言葉とさせていただきます。本日は、ありがとうございました。

8 閉式の辞

司会 それでは、最後に、千葉大会実行委員会副 委員長の水野恭成より、閉式の辞を申し述べます。

水野恭成 皆さん、2日間、この千葉大会のためにお忙しい時間を割いていただき、ありがとうございます。佐野会長、次期開催地静岡県の杉浦実行委員長、大木実行委員長の素晴らしいお言葉の後で甚だ恐縮ではございますが、これをもちまして、第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会を終了いたします。ありがとうございました。

司会 以上をもちまして、第66回全国高等学校 P T A 連合会大会千葉大会、一切を終了いたしました。 2 日間にわたる千葉大会のご参加、誠にありがとうございました。お忘れ物のないようお気を付けてお帰りくださいませ。

なお、千葉県の観光案内とお土産の販売に関し ましては、メイン会場、イベントホールのロビー のみで実施しております。ご利用をご希望の方 は、そちらをご利用ください。

それでは、また来年、静岡大会でお会いいたしましょう。

大会宣言

「『**再発見!愛**』**~今こそ信じよう愛の絆~**」をテーマに、第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会が、房総の地で開催され、大きな成果を収めました。

我が国では、長い間、子どもは「家庭や地域の宝」であり、みんなで子どもを育てて来ました。私たちは、ここに子どもに対する深い愛情を感じたものでした。

ところが、近年、社会の在り方や価値観が大きく変化し、家族や地域のつながりは弱いものとなり、子 どもをみんなで育てようとする気持ちが薄らいできたように思います。

私たちは、かつては当たり前だった「家庭と地域の教育力」に注目し、「学校の教育力」と手を携え、子どもをみんなで育てようとする社会の再生を提唱します。

それは、子ども、家庭、そして地域も生き生きとする社会です。

家庭、地域、学校の協力を「絆」、子どもを育てることを「愛」と考えると、「絆」を再構築することが、「愛」の再発見につながります。

本大会では、子どもたちをみんなで育てる社会を再び作り上げるために、PTAの果たす役割や活動の 在り方について熱心に討議されました。

ここに大会の成果を踏まえ、PTA活動がより一層、活性化し発展することを願い、以下のとおり宣言します。

- 一 これからのグローバルな社会に対し、子どもたちが自分で考え、行動し、多様な社会に対応が出来る力を高められるように、私たち大人が、環境を整え、子どもたちの資質や能力を育むように努める。
- 一 自分の夢は何なのか、将来自分のやりたい事は何なのか、子どもたちの夢や希望を叶えるために、私 たち大人が連携し、手本を見せ、子どもたちの夢の実現の支援に努める。
- 一 大切なものは何なのか、必要なことは何なのか、子どもたちの個性や感性を伸ばすために私たち大人 が家庭、学校、地域で連携し、子どもたちの思いやりのある豊かな心を育てるように努める。
- 一 情報が溢れ、利便性が飛躍的に向上している社会の中で、子どもたちが正しい知識や、コミュニケーション力を培う必要がある。そのために、私たち大人が、人と人との付き合いを通して子どもたちに、 次世代に繋がる真の信頼関係を築くためのコミュニケーション力を伝えるように努める。

第66回全国高等学校 P T A 連合会大会千葉大会において宣言する。

平成28年8月26日 一般社団法人 全国高等学校PTA連合会

自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動

現在、子どもたちの「大切な命」を取り巻く環境はたいへん厳しいものがあり、毎日のように報道される様々な交通事故によって、多くの「大切な命」が失われています。

私たちは「バイクの3ない運動」をとおして、子どもたちの「大切な命」を守る運動を続けてきましたが、現状はバイクだけでなく、自転車や歩行者等の交通マナーを向上させることが急務です。

そのため本会では、子どもたちの「大切な命」を守る観点より、地域社会と共に具体的な交通安全指導を推進する必要があると考え、「自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動」を実施することになりました。各機関・団体等と連携・協力して、交通安全教育の充実のために効果的な活動を推進していきます。

目 的

「被害者にならない、加害者にさせない」 マナーアップ運動を展開して、子どもたちの命を守る。

運動内容

- 1 地域の関係機関や団体等と連携・協力し、具体的かつ積極的にマナーアップ運動を展開する。
- 2 交通ルールを守り、自他の命や安全を大切にする心を育てる教育を充実する。
- 3 「バイクの3ない運動」(免許は取らない・乗らない・買わない) は埼玉大会での宣言文の精神を踏襲する。
- 4 日頃から保護者と子どもたちの会話や心の交流を密にし、交通モラルの向上に努める。

平成28年8月26日 一般社団法人 全国高等学校PTA連合会

編集後記

師走に入り、街はにわかにざわめいてきました。クリスマスのイルミネーションが風に揺れています。あの夏の日から4ヶ月、資料広報部会の大会会報の編集作業も終盤に入りました。皆様がこの会報をお手にする頃は、春のたよりが届いているでしょうか。

思えば、2年前に千葉大会に向けての準備委員会が発足したころは、経験のない仕事でどうなるんだろうと不安しかありませんでした。岩



手大会の視察を含め、福井や岩手の資料を参考にさせていただき、長い準備期間を経て、2016年千葉大会を迎えました。途中、メンバーの多少の入れ替えもありましたが、このことがなければお話しすることもなかった皆さんとずっと一つの仕事をしてきたことは、何か不思議な感じさえします。実施要項の制作では、分科会の原稿や千葉県の紹介ページの写真を集めたり校正したり、とにかく多岐にわたる仕事でたいへんでした。特に、前日の準備で完成した1万1千冊の要項とその他の資料(5トン)を袋詰めしたあの作業は忘れることはできません。

ある友人は、「この全国大会をわたしのPTA活動の集大成にするわ」と言っていました。子育てをしながら、小学校、中学校、高等学校といつもPTA活動に協力してきた彼女は、最後に全国大会の運営スタッフの大役をまかされたのです。スタッフ、役員、発表者、それぞれが、いろいろな思いをもちながら参加していたんだろうと思います。

全国から千葉にお集まりいただいた皆様、この会報をお開きいただきありがとうございます。あの暑かった日がよみがえりましたでしょうか。分科会で聞いた活動のヒントはお役にたてていただけましたか。千葉大会にご不満や至らぬ点があったことをどうぞご容赦ください。

実施要項も含め、原稿を提供していただいた皆様、ご多用の中、誠にありがとうございました。 PTA活動は、人が替わりながら、引き継がれていきます。これからも高P連のますますの発展 をお祈りします。

皆様、千葉はよいとこ、また是非遊びにいらしてください。

平成28年12月

第66回全国高等学校 P T A 連合会大会千葉大会 実行委員会副委員長兼資料広報部会長 菅 澤 朱 美

〈訂正とお詫び〉

全国大会で配布しました「大会要項」において、下記の通り誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。 94頁 平成28年全国高等学校PTA連合会会長表彰(団体)

新潟県立糸魚川高等学校PTA→新潟県立糸魚川高等学校保護者会

分科会収録 DVD

,	,

- ●当該 DVD は、パソコン・ご家庭の DVD プレイヤーでご覧いただけます。
- ●当該 DVD は、PTAでの研修会・学習会での活用を目的として製作されたものです。 関連部外やインターネット等、メディアに流出しないよう、ご注意をお願いいたします。



一般社団法人 全国高等学校PTA連合会事務局

〒 101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 2-1 奥田ビル 301 号 TEL 03-5835-5711 FAX 03-5835-5757

千葉県高等学校PTA連合会

千葉大会実行委員会事務局

